

## 周辺地域動態

## 7. 周辺地域動態

### 7.1 進め方

#### 7.1.1 整理方針

周辺地域動態は大きく2つの流れで整理する。一つは、地域との関わりという点で、地域情勢の変遷を整理するとともに、地域連携のための取り組みを紹介する。もう一つの流れとして、周辺施設や湖の利用状況を把握する。

#### 7.1.2 整理手順

整理方針のとおり大きく2つの流れにより行い、とりまとめることとする。

作業のフローは図に示すとおりである。

#### (1) 周辺地域の概況

周辺地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等の立地特性等の視点から周辺地域の概況を把握する。

#### (2) 事業と地域社会情勢の変遷

周辺地域の社会情勢、計画等について事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理する。これらのまとめにより、周辺地域の地域特性や近年の動向を把握する。

#### (3) 地域連携のための取り組み

管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度の管理者と地域の交流事項等について整理する。

#### (4) 周辺の状況

湖の周辺施設について紹介し、施設入り込み数、イベント開催状況等の利用状況を整理する。

#### (5) まとめ

以上より、地域と事業の関わり、周辺施設等の利用状況をまとめる。

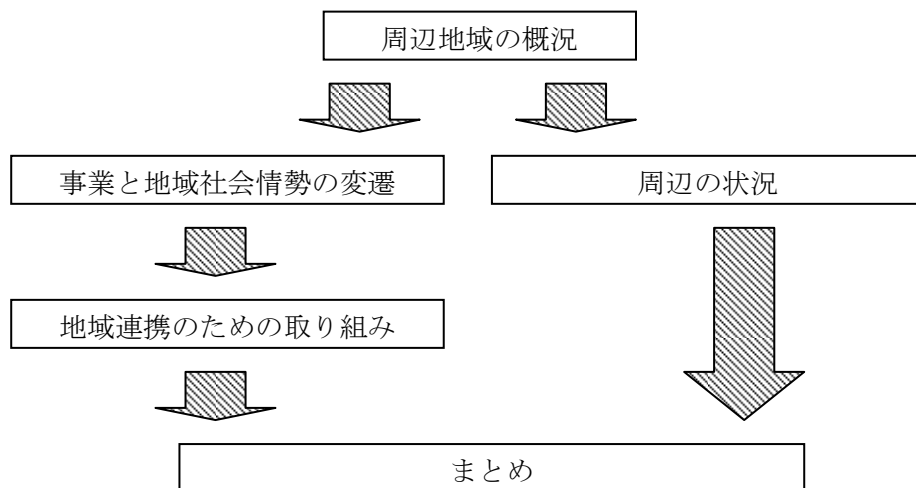


図 7.1-1 検討手順

#### 7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

湖周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.9 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 周辺地域の概況

### 7.2.1 周辺地域の概要

琵琶湖を囲む滋賀県は、日本列島のほぼ中央にあり、伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれた盆地である。中央に滋賀県全面積の約6分の1を占める日本一の湖、琵琶湖をかかえ周囲の山々から流れ出る多くの川が琵琶湖に注いでいる。

#### (1) 流域の概況

2003(平成15)年まで8市41町1村であった滋賀県は、2004(平成16)年10月1日の市町村合併により、2町の合併により野洲市、湖南市、5町合併により甲賀市が誕生し、近年まで合併特例法の下で市町村合併が進み、現在では13市13町と計26市町となっており新たなまちづくりの取組みがはじまっている。琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積を表7.2-1に示す。

表 7.2-1 琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積

市町村名	旧市町村名		市町村名	旧市町村名	
	旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )		旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )
琵琶湖		670.25	東近江市	神崎郡五個荘町	16.28
大津市	大津市	302.33	愛知郡	愛知郡愛東町	40.89
	滋賀郡志賀町	71.73		愛知郡湖東町	26.53
彦根市	彦根市	98.15		蒲生郡蒲生町	34.64
長浜市	長浜市	45.50		神崎郡能登川町	31.12
	東浅井郡びわ町	87.09	坂田郡米原町	42.78	
	東浅井郡浅井町	16.98	坂田郡山東町	53.11	
近江八幡市	近江八幡市	76.97	坂田郡伊吹町	109.17	
草津市	草津市	48.22	坂田郡近江町	18.04	
守山市	守山市	44.26	蒲生郡		
栗東市	栗東市	481.59	安土町	蒲生郡安土町	24.30
甲賀市	甲賀郡水口町	68.93	日野町	蒲生郡日野町	117.63
	甲賀郡土山町	127.14	竜王町	蒲生郡竜王町	44.52
	甲賀郡甲賀町	71.63	愛知郡		
	甲賀郡甲南町	49.65	愛知郡	愛知郡愛荘町	25.04
	甲賀郡信楽町	164.34	愛知郡	愛知郡愛知川町	12.91
野洲市	野洲郡中主町	20.94	犬上郡		
	野洲郡野洲町	40.51	豊郷町	犬上郡豊郷町	7.82
湖南市	甲賀郡石部町	13.33	甲良町	犬上郡甲良町	13.62
	甲賀郡甲西町	57.16	多賀町	犬上郡多賀町	135.93
高島市	高島郡マキノ町	78.34	東浅井郡		
	高島郡今津町	122.74	虎姫町	東浅井郡虎姫町	9.45
	高島郡朽木村	165.77	湖北町	東浅井郡湖北町	29.08
	高島郡安曇川町	48.47	伊香郡		
	高島郡高島町	63.20	高月町	伊香郡高月町	28.27
	高島郡新旭町	32.84	木之本町	伊香郡木之本町	88.44
東近江市	八日市市	52.60	余呉町	伊香郡余呉町	167.62
	神崎郡永源寺町	181.27	西浅井町	伊香郡西浅井町	67.05

出典：

市町村面積（インターネットより収集）

- 甲賀郡（水口町、土山町、甲賀町、甲南町、信楽町、石部町、甲西町）、野洲郡（中主町、野洲町）：2003(平成15)年度滋賀県統計書
- 八日市市、高島郡（マキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町、新旭町）、神崎郡（永源寺町、五個荘町）、愛知郡（愛東町、湖東町）、

坂田郡（米原町、山東町、伊吹町、近江町）：2004(平成 16)年度滋賀県統計書



大津市、長浜市、滋賀郡志賀町、東浅井郡（びわ町、浅井町）、蒲生郡蒲生町、  
神崎郡能登川町、愛知郡（愛荘町、愛知川町）：2005(平成 17)年度滋賀県統計書



琵琶湖、彦根市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、  
蒲生郡（安土町、日野町、竜王町）、犬上郡（豊郷町、甲良町、多賀町）、  
東浅井郡（虎姫町、湖北町）、伊香郡（高月町、木之本、余呉町、西浅井町）  
：2006(平成 18)年度滋賀県統計書

市町村合併：滋賀県 HP「市町村合併を考える」参照

- ✓ 2004(平成 16)年 10 月 1 日に旧野洲町、旧中主町が合併し、「野洲市」になった。
- ✓ 2004(平成 16)年 10 月 1 日に旧水口町、旧土山町、旧甲賀町、旧甲南町、旧信楽町が合併し、「甲賀市」になった。
- ✓ 2004(平成 16)年 10 月 1 日に旧石部町、旧甲西町が合併し、「湖南町」になった。
- ✓ 2005(平成 17)年 1 月 1 日に旧高島郡（マキノ町、今津町、安曇川町、高島町、新旭町、朽木村）と合併し、「高島市」になった。
- ✓ 2005(平成 17)年 2 月 11 日に旧八日市市、旧神崎郡（永源寺町、五個荘町）、旧愛知郡（愛東町、湖東町）と合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2005(平成 17)年 2 月 14 日に旧坂田郡（米原町、山東町、伊吹町）と合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2005(平成 17)年 10 月 1 日に旧米原市、旧坂田郡近江町と合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2006(平成 18)年 1 月 1 日に旧東近江市、旧蒲生郡蒲生町、旧神崎郡能登川町と合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2006(平成 18)年 2 月 13 日に旧長浜市、旧東浅井郡浅井町、旧東浅井郡びわ町と合併し、「長浜市」になった。
- ✓ 2006(平成 18)年 2 月 13 日に旧愛知郡（愛荘町、愛知川町）と合併し、「愛荘町」になった。
- ✓ 2006(平成 18)年 3 月 20 日に旧大津市、旧滋賀郡志賀町と合併し、「大津市」になった。

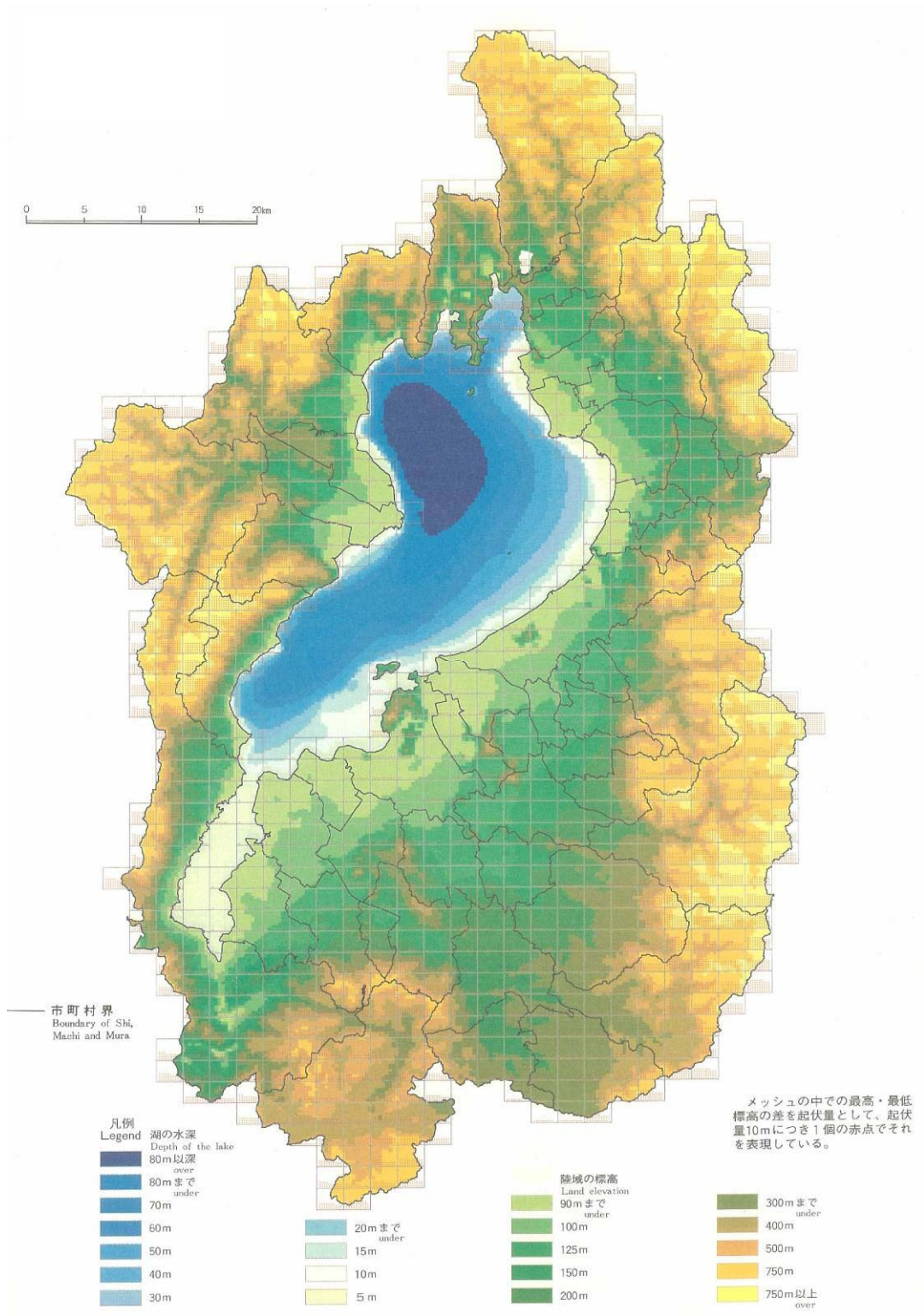


図 7.2-1 琵琶湖流域の地形図

出典：滋賀県「琵琶湖周辺地域環境利用ガイド」

## (2) 人口・世帯数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における人口・世帯数の推移を表 7.2-2、図 7.2-2 に示す。

滋賀県内の人口は、1950(昭和 25)年頃から 1960(昭和 35)年代後半頃までの 10 年間は 85 万人前後に推移していたが、その後、急激な増加を続け、2007(平成 19)年には約 139 万人となっている。滋賀県は琵琶湖周辺流域に相当することから、この 47 年間で琵琶湖流域の人口が約 54 万人(約 1.6 倍)増加したと言える。

表 7.2-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

	明治23年	明治33年	明治43年	大正4年	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和20年	昭和25年	昭和30年
世帯数(世帯)	134,861	131,054	131,801	133,990	143,426	144,662	147,962	151,132	149,135	...	178,689	177,482
総人口(人)	677,500	701,786	693,018	712,076	651,050	662,412	691,631	711,436	703,679	860,911	861,180	853,734
	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年*	平成19年*
世帯数(世帯)	183,277	195,831	215,263	250,944	302,635	330,012	362,253	405,349	453,695	495,960	506,434	516,221
総人口(人)	842,695	853,385	889,768	985,621	1,079,898	1,155,844	1,222,411	1,287,005	1,342,832	1,380,361	1,387,110	1,394,809

注 1) ※印の人口と世帯数および 1980(昭和 55)年、1985(昭和 60)年、1990(平成 2)年、1995(平成 7)年、2000(平成 12)年、2005(平成 17)年の世帯数については県推計による。

注 2) 1890(明治 23)～1910(明治 43)年および 1915(大正 4)年については各年 12 月末現在である。

出典：総務省統計局「国勢調査報告」、県統計課「滋賀県推計人口年報」

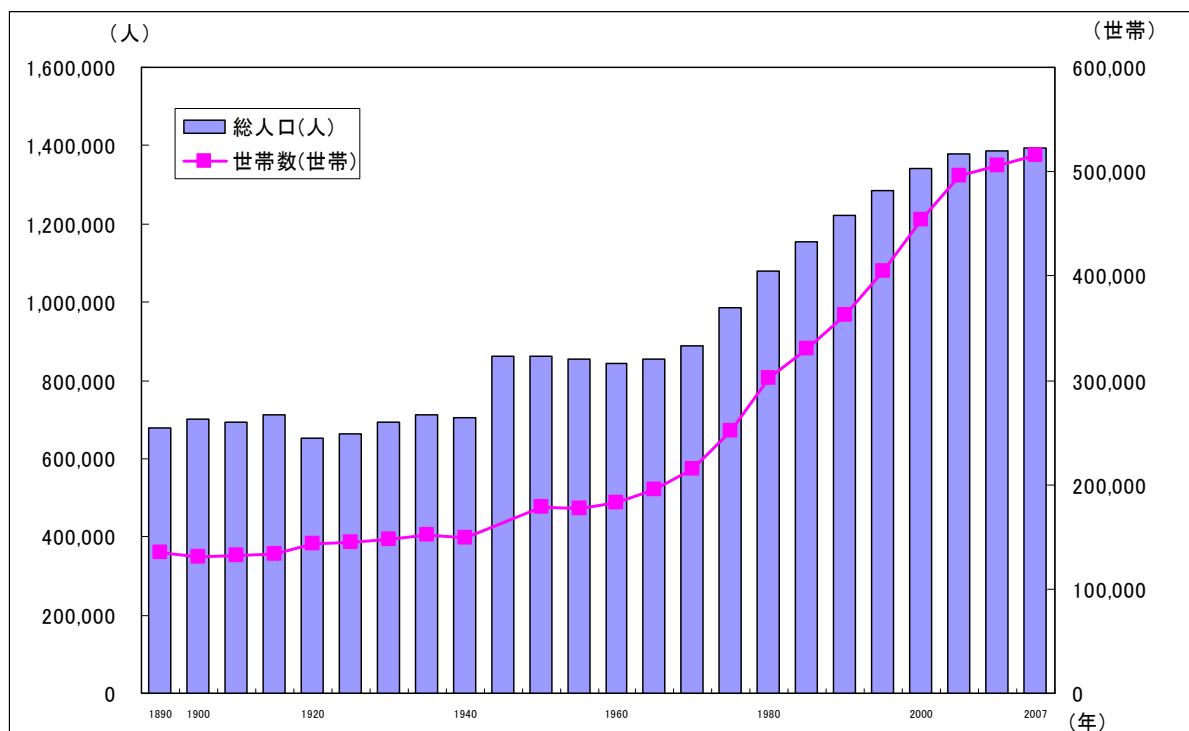


図 7.2-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

### (3) 就業者数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における就業者数の推移を表 7.2-3、図 7.2-3 に示す。

就業者数は全体的に増加傾向にあるものの、第 1 次産業、第 2 次産業とも減少傾向にある。また、各年とも第 3 次産業が全体の 50%強を占めている。

表 7.2-3 滋賀県内における就業者数の推移

産 業 別	就 業 者 数				増加率	
	平成 2 年	7	12	17	12/7	17/12
	人	人	人	人	%	%
総数	600,978	654,947	669,487	680,478	2.2	1.6
第 1 次産業	34,527	33,047	23,518	25,145	△28.8	6.9
農業	32,827	31,518	22,213	24,133	△29.5	8.6
林業	663	637	530	366	△16.8	△30.9
漁業	1,037	892	775	646	△13.1	△16.6
第 2 次産業	255,076	267,257	259,531	234,322	△2.9	△9.7
鉱業	358	378	304	196	△19.6	△35.5
建設業	47,437	57,240	56,276	50,194	△1.7	△10.8
製造業	207,281	209,639	202,951	183,932	△3.2	△9.4
第 3 次産業	309,539	352,168	378,477	411,386	7.5	8.7
電気・ガス・熱供給・水道業	3,063	3,558	3,789	2,917	6.5	△23.0
運輸・通信業	31,981	35,771	36,841	-	3.0	-
(情報通信業)	-	-	-	8,249	-	-
(運 輸 業)	-	-	-	29,911	-	-
卸売・小売業、飲食店	110,528	123,423	129,818	-	5.2	-
(卸売・小売業)	-	-	-	107,326	-	-
金融・保険業	15,523	16,452	14,924	14,174	△9.3	△5.0
不動産業	3,765	4,187	4,758	5,808	13.6	22.1
サービス業	124,300	147,797	166,309	-	12.5	-
(飲食店・宿泊業)	-	-	-	29,441	-	-
(医 療 ・ 福 祉)	-	-	-	56,555	-	-
(教育・学習支援業)	-	-	-	32,162	-	-
(複合サービス事業)	-	-	-	7,928	-	-
(サービス業(他に分類されないもの))	-	-	-	93,877	-	-
公務(他に分類されないもの)	20,379	20,980	22,038	23,038	5.0	4.5
分類不能の産業	1,836	2,475	7,961	9,625	221.7	20.9

※ 2002(平成 14)年に産業分類が改訂されたため、2000(平成 12)年以前の産業分類と 2005(平成 17)年の産業分類とはリンクしていない。出典：総務省統計局「国勢調査報告」

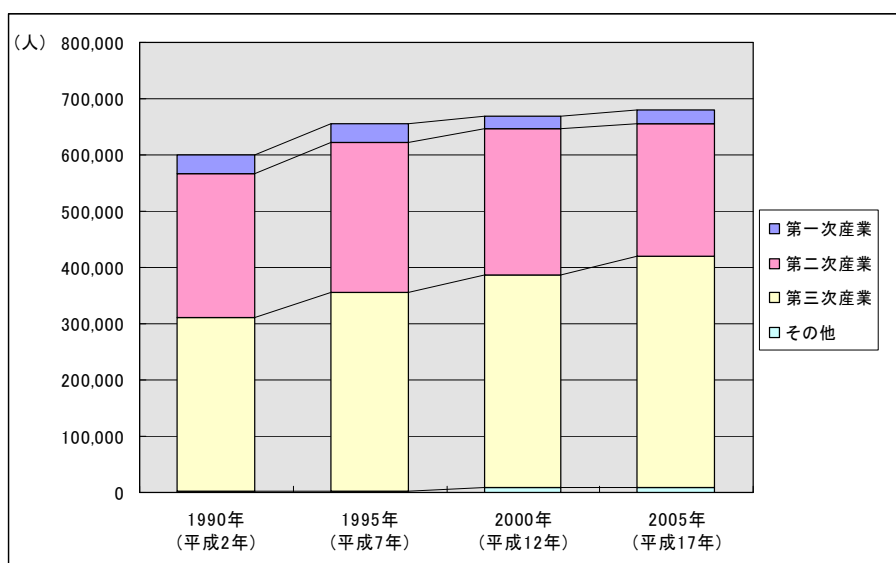


図 7.2-3 滋賀県内における就業者数の推移

#### (4) 土地利用と産業

滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移について、図 7.2-4 に示す。

1966(昭和 41)年から 2005(平成 17)年の 40 年間の変化を見ると、田は 650km<sup>2</sup> から 546km<sup>2</sup> と 104km<sup>2</sup> (16%) の減少、畑は 86km<sup>2</sup> から 63km<sup>2</sup> と 23km<sup>2</sup> (27%) の減少、宅地は 89km<sup>2</sup> から 226km<sup>2</sup> と 137km<sup>2</sup> (154%) の増加であり、同期間における全国値 (12%減, 4%減, 127%増) と比較すると、滋賀県では都市化の進行に伴う農地から宅地その他への転用が急速に行われたといえる。

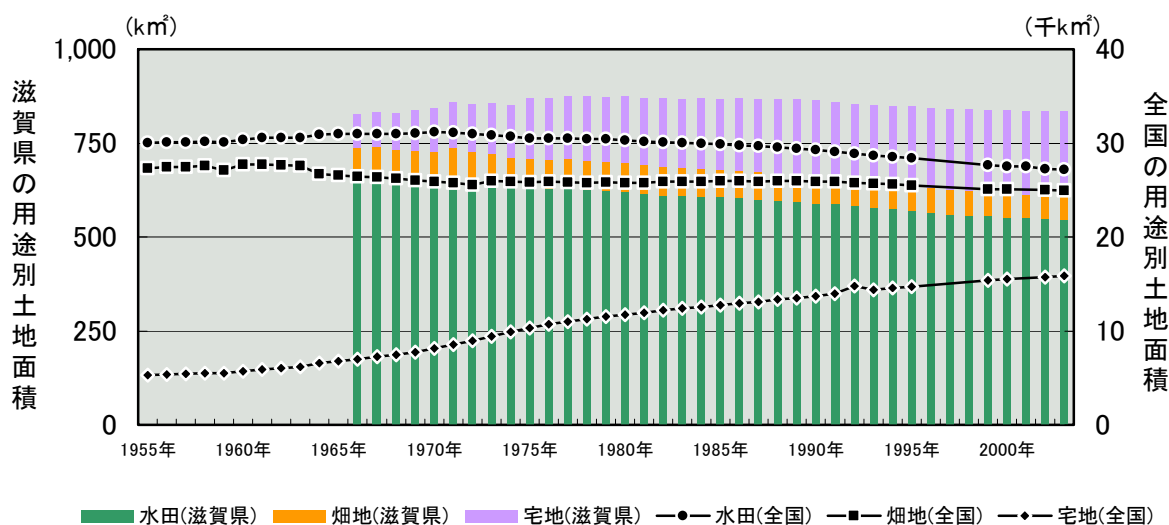


図 7.2-4 滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移

出典：滋賀県「滋賀県統計書」、総務庁統計局「日本長期統計総覧」「日本統計年鑑」

図 7.2-5、図 7.2-6 に示す琵琶湖流域の土地利用分布をみると、田畑は主に琵琶湖東岸の低地に分布しており、西岸側にはわずかにしかないことがわかる。市街地についても同様に西岸より東岸に多く分布しており、他には南部の地域にも多く分布している。

また、経年的な推移からみると、東岸域を中心に森林の農地に改変していく状況がうかがえ、近年では、これらの農地が宅地に変わっていることがわかる。



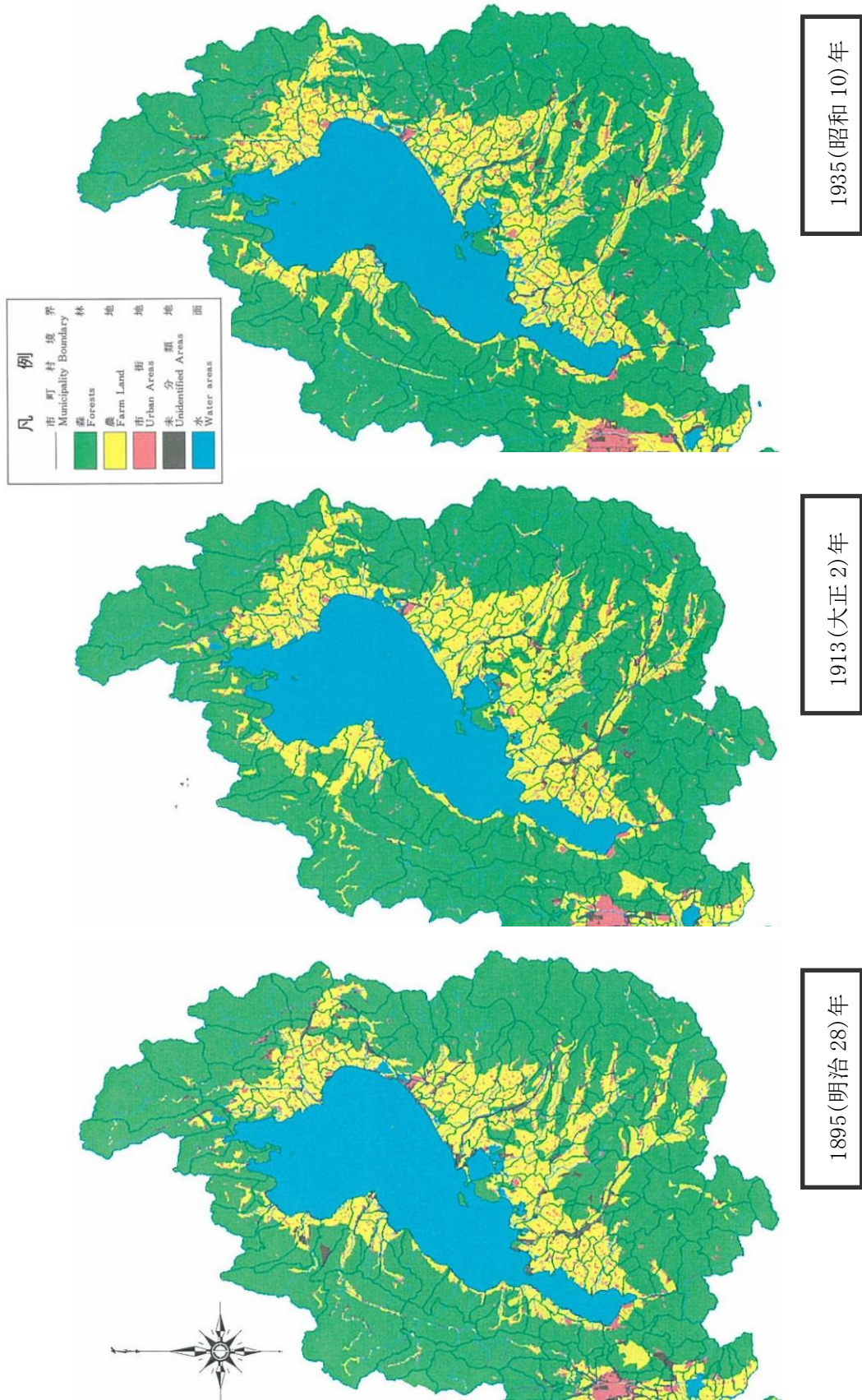


図 7.2-5 琵琶湖淀川流域の土地利用状況  
 (上：1935(昭和 10)年、中：1913(大正 2)年、下：1895(明治 28)年)

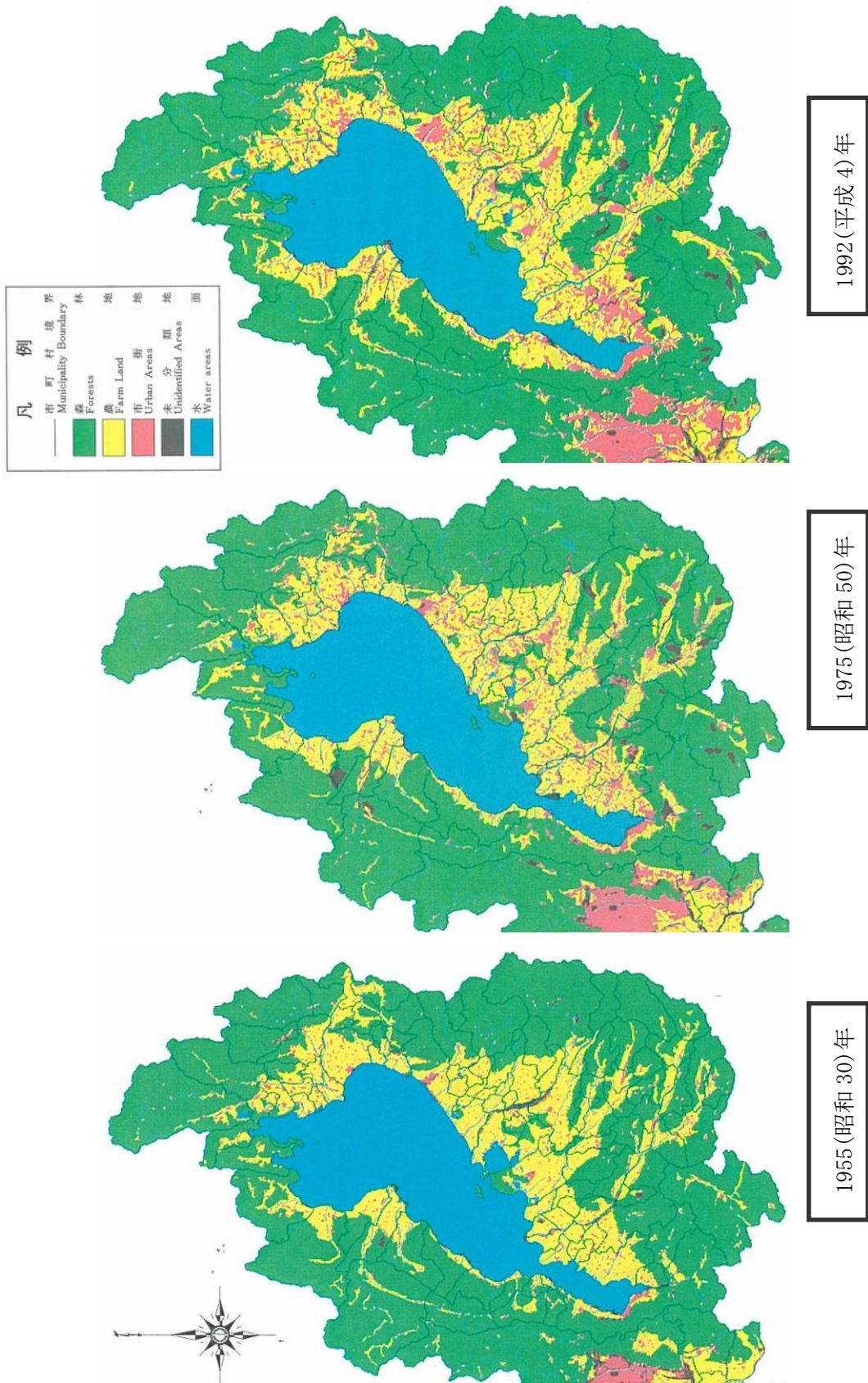


図 7.2-6 琵琶湖淀川流域の土地利用状況

(上：1992(平成4)年、中：1975(昭和50)年、下：1955(昭和30)年)

出典：滋賀県「琵琶湖博物館 研究調査報告書6号」

## 7.2.2 立地特性

### (1) 琵琶湖へのアクセス

琵琶湖は大阪から北東へ40km、京都より東へ10kmのところの位置にあり、琵琶湖周辺は古来より交通網が発達してきた。大阪都心部から自動車で行く場合は名神高速道路を利用して約1時間、JR東海道、京阪線を利用して約1時間（浜大津駅）でアクセスでき、また、京都からは自動車で行く場合は名神高速道路を利用して20分、市営地下鉄、京阪線を利用して30分（浜大津駅）の位置にある。更に、琵琶湖周辺の交通網が発達していることから周辺地域へのアクセスも容易である。また、琵琶湖開発事業による湖岸堤管理道路は県道としての供用も行われており、観光や流通の他、県民生活にとっても重要な道路として利用されている。

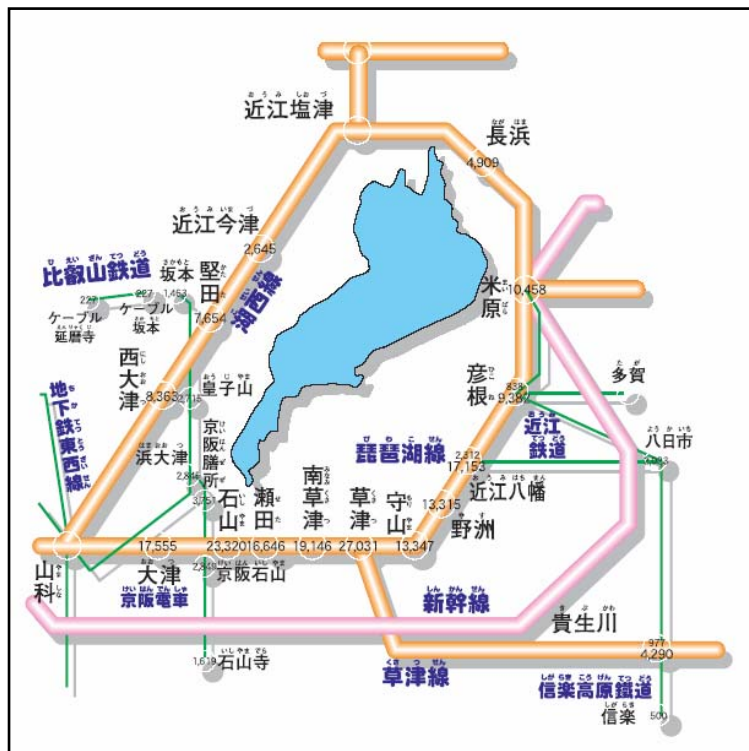


図 7.2-7 周辺都市からの交通網

出典：図で見る滋賀県の姿 2007 滋賀県より（交通 P29）

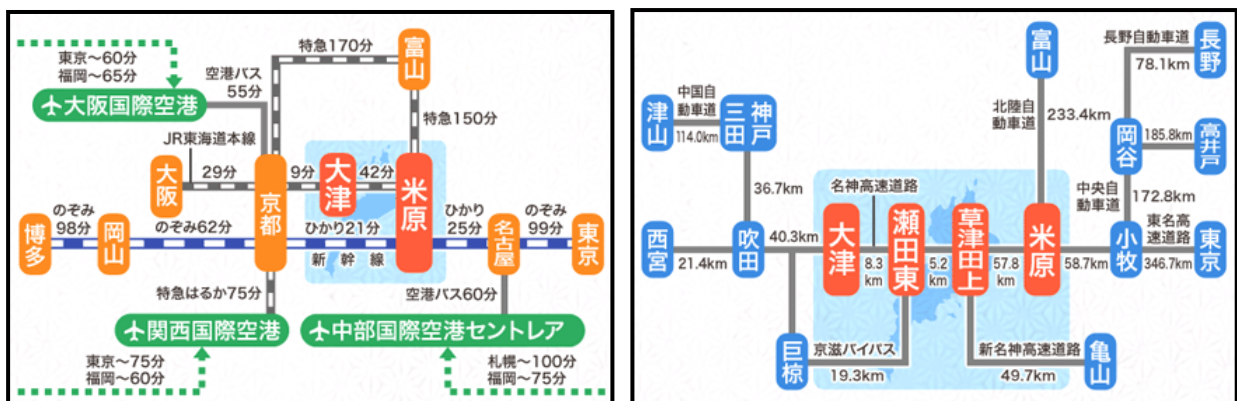


図 7.2-8 滋賀県へのアクセス

出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」

## (2) 周辺の観光施設等

琵琶湖周辺には、様々な観光資源があり、図 7.2-9 に示すように多くの人が訪れている。流域の代表的な観光資源としては、琵琶湖の美しい景色として「琵琶湖八景」や「近江八景」といった名称で知られている。

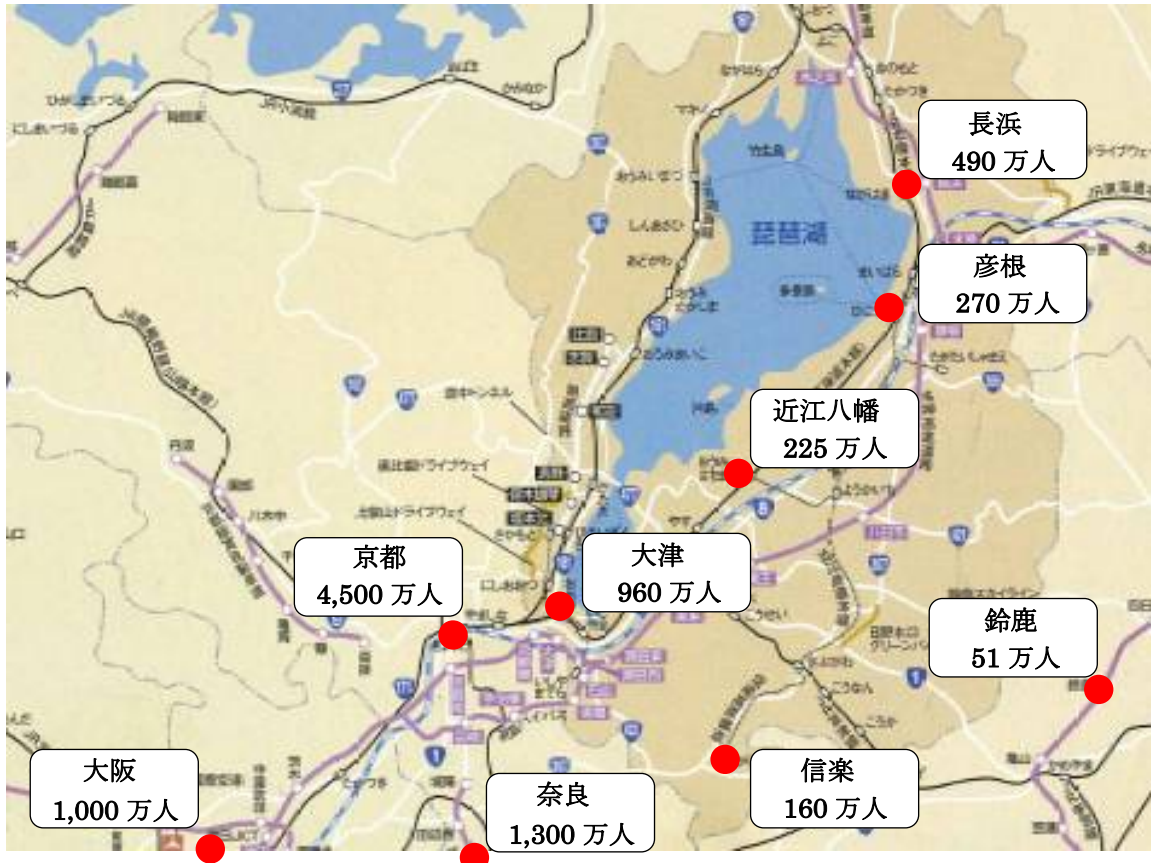


図 7.2-9 琵琶湖周辺の観光入込み数

出典：地図 滋賀観光ベストガイドパンフレット (社)びわこビジターズビューロー  
入り込み数 平成 16 年度 全国観光動向調査 (社)日本観光協会

琵琶湖周辺の観光施設等を図 7.2-10 ～ 図 7.2-14、表 7.2-4 ～ 表 7.2-6 に示す。



図 7.2-10 琵琶湖周辺の観光名所等 (出典：滋賀県 HP)

表 7.2-4 琵琶湖周辺の観光名所等 (出典：滋賀県 HP)

名 称	概 要	所在地
①「暁霧」海津大崎の岩礁	荒々しく、雄大な風景が見られ湖面から立ちのぼる霧が岩礁をつつんで、幻想的です。	伊香郡 西浅井町
②「涼風」雄松崎の白汀	“松は緑に砂白き...”と、「琵琶湖周航の歌」に歌われています。	大津市 志賀町
③「煙雨」比叡の樹林	深い樹林の中に、延暦寺などが建ちならび、雨にかすむ静かな雰囲気を感じられます。	大津市 坂本本町
④「夕陽」瀬田石山の清流	夕日に映える瀬田川の流れには日本三名橋の一つ唐橋がかかり、美しい風景です。	大津市 瀬田
⑤「新雪」賤ヶ岳の大観	賤ヶ岳は、羽柴秀吉と柴田勝家が戦った「賤ヶ岳の合戦」でその名を歴史にとどめています。	伊香郡 木之本町
⑥「深緑」竹生島の沈影	深い緑に包まれ、青い水面に映る島影はびわ湖を代表する風景の一つです。	長浜市 びわ町
⑦「月明」彦根の古城	月明かりに浮かび上がる古城は、訪れる人々に歴史の重みを感じさせます。	彦根市
⑧「春色」安土八幡の水郷	西の湖を中心に水路が網の目のように広がり、ヨシ群落の中を水郷めぐりができます。	蒲生郡 安土町



「暁霧」海津大崎の岩礁



「涼風」雄松崎の白汀



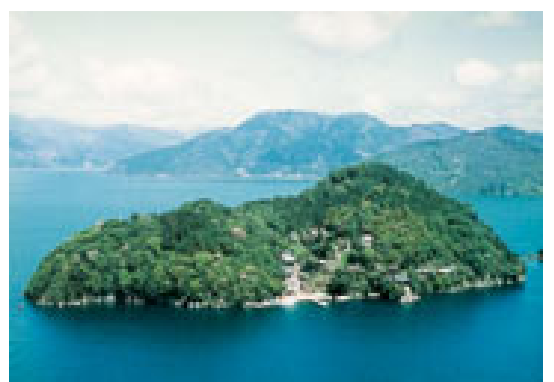
「煙雨」比叡の樹林



「夕陽」瀬田石山の清流



「新雪」賤ヶ岳の大観



「深緑」竹生島の沈影



「月明」彦根の古城



「春色」安土八幡の水郷

図 7.2-11 琵琶湖周辺の観光名所等 (出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」)



図 7.2-12 琵琶湖周辺の観光名所等 (出典：滋賀県 HP)

表 7.2-5 琵琶湖周辺の観光名所等 (出典：滋賀県 HP)

比良の暮雪 (ひらのぼせつ)	堅田の落雁 (かただのらくがん)	唐崎の夜雨 (からさきのやう)	三井の晩鐘 (みいのばんしょう)
粟津の晴嵐 (あわづのせいらん)	矢橋の帰帆 (やばせのきはん)	瀬田の夕照 (せたのせきしょう)	石山の秋月 (いしやまのしゅうげつ)



図 7.2-13 琵琶湖周辺の観光名所等

表 7.2-6 琵琶湖周辺の観光名所等(1)

名 称	概 要	所在地
マイアミランド	1994(平成 6)年 4 月にオープンしたビワコマイアミランドは琵琶湖国定公園湖岸緑地マイアミ・アヤメ浜園地にあり、沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の素晴らしい環境にあります。この恵まれた大自然の中で、のんびりとキャンプやテニス、ローンフィールド、バードウォッチング等を楽しめます。また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できます。	野洲市
鳥丸半島	草津市域の最北、琵琶湖に突き出す鳥丸半島周辺には約 13ha にも及ぶわが国有数の蓮の群生地があり、琵琶湖の原風景といわれるヨシ原が今もその姿を留めています。毎年盛夏の頃にはこの広大な景観が多くの観光客の目を楽しませます。半島ではこうした自然環境の保全をモチーフにした「水生植物公園みずの森」、「くさつ夢風車」(風力発電施設)、「琵琶湖博物館」が、また、「UNEP (国連環境計画) 国際環境技術センター」があり、水環境の保全にかかるノウハウと情報を世界に向けて発信する拠点となっています。	草津市
高島市新旭水鳥観察センター	穏やかな入江に面した窓から望遠鏡で自然に暮らす鳥たちをじっくり観察できます。また、本格的な音響と座席を備えた映像・ギャラリーコーナーなども用意し、誰でも水鳥や琵琶湖の自然を楽しめます。	新旭町
琵琶湖水鳥・湿地センター	琵琶湖がラムサール条約の登録湿地に指定されたことを契機に設置されました。水鳥や湿地に関する学習や調査研究の拠点施設。館内には水鳥は琵琶湖に関する展示の他、大型マルチビジョンが置かれ湖岸の水鳥の生態がテレビカメラによって映し出されます。	湖北町
浮御堂	江八景「堅田の落雁」で名高い浮御堂は、寺名を海門山満月寺という。平安時代、恵心僧都が湖上安全と衆生済度を祈願して建立したという。境内の観音堂には、重要文化財である聖観音座像が安置されている。	大津市

出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」



表 7.2-6 琵琶湖周辺の観光名所等(2)

名 称	概 要	所在地
白鬚神社大鳥居	「白鬚さん」「明神さん」の名で広く親しまれ、また、「近江の巖島（いつくしま）」とも呼ばれています。社名のとおり、延命長寿・長生きの神様として知られ、また、縁結び・子授け・開運招福・学業成就・交通安全・航海安全など、人の営みごと、業ごとすべての導きの神でもあります。祭神は猿田彦命（さるたひこのみこと）。	高島市
竹生島	沖合約 6km に浮かぶ周囲 2km あまりの小島で、島の名前は「神を齋（いつ）く島」に由来している。中世以来、西国三十三所観音霊場として多くの参詣客でにぎわってきた。その信仰は今も絶えることなく、年間を通して多くの観光客が訪れる。琵琶湖八景の一つにも数えられ、『「深緑」竹生島の沈影』と称されています。	長浜市
彦根城	井伊直継（なおつぐ）・直孝（なおたか）によって約 20 年の歳月をかけて建設され、元和 8 年（1622）に完成しました。佐和（さわ）山城・安土城・長浜城・大津城の石垣や用材が使われました。月明かりに浮かぶ彦根城は美しく、琵琶湖八景の 1 つに数えられています。	彦根市
滋賀県立琵琶湖博物館	琵琶湖の誕生から現在までの生い立ちや、生き物とのかかわりについて楽しみながら学ぶことができる「体験型」の博物館。古代の琵琶湖を原寸大のジオラマで紹介する展示や、ピワコオオナマズをはじめ琵琶湖にすむ様々な生き物たちや、世界の代表的な湖の淡水魚が見られる日本最大級の淡水水族展示などがある。また、図書室、情報利用室なども併設している。	草津市
草津市立水生植物公園みずの森	琵琶湖に面した風光明媚な場所にあり、季節ごとに移り変わる風景を楽しむことができる植物園。初夏には日本最多の 140 種類以上のスイレンのコレクションが見られる。夏から秋に花影の池では珍しい水生植物が多数みられる。春から秋には丘の上の花園では、ガーデニングのヒントになる珍しい草花も咲き乱れている。また、園の東側からは琵琶湖に咲く野生のハス群生地が臨め、開花期を迎える盛夏には湖面一面がピンク色の花に彩られる。	草津市
滋賀県立環境科学館	下水道や水環境について楽しく学習して頂く施設として、1993(平成 5)年 6 月にオープンしました。いのちの源である「水」についてさまざまな活動や情報を発信しています。	草津市
滋賀県安土城考古学博物館	特別史跡安土城跡をはじめ、史跡観音寺城跡、史跡瓢箪山古墳、史跡大中の湖南遺跡で構成されている「近江風土記の丘」の中心的な施設として、風土記の丘の各史跡を紹介するとともに、その時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしています。そして、当館では、城郭と考古を主なテーマとした展示、講座、講演会等の普及啓発事業を行っています。また、城郭の調査研究や土器等の考古資料の調査、整理、復元を行い、その成果を公開するなど、地域文化の創造の拠点施設として活動しています	蒲生郡 安土町

出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」



マイアミランド



烏丸半島



高島市新旭水鳥観察センター



琵琶湖水鳥・湿地センター



浮御堂



白鬚神社大鳥居



竹生島



彦根城

図 7.2-14(1) 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」



滋賀県立琵琶湖博物館



草津市立水生植物公園みずの森



滋賀県立環境科学館



滋賀県安土城考古学博物館

図 7.2-14(2) 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：社団法人びわこビジターズビューローHP「滋賀県観光情報」

## 7.3 事業と地域社会情勢の変遷

### 7.3.1 琵琶湖と地域社会の変遷

琵琶湖と地域社会の変遷について表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1 琵琶湖流域社会の歴史の変遷

年代	元号	西暦	日本の主なできごと	琵琶湖流域社会の変遷
明治	明治	1	明治維新	大津県がおかれる
		7		鳥居川量水標設置
		11		大戸川流域直轄砂防事業はじまる
		23		琵琶湖第一疏水、インクライン完成
		26		彦根測候所開設
		29		旧河川法成立
		38		日露戦争終
大正	大正	45	日露戦争終	琵琶湖第二疏水工事完成
		2	第一次世界大戦始まる	宇治川発電所完成
		3		京大、大津臨湖実験開設
		8		伊吹山観測所気象観測開始
		14		大津柳ヶ崎水泳場、県下初の公衆水泳場とし開設
昭和	昭和	15		瀬田町で琵琶湖からの逆水かんがい成功
16		太平洋戦争勃発		
19		太平洋戦争勃発		
25		国土総合開発法公布		
33		下水道法成立		
36		水資源開発二法成立		
39		新河川法成立		
41		琵琶湖干拓地決定（松原、曾根沼等の内湖）		
44		琵琶湖国定公園指定（日本では最初の国定公園）		
45		比叡山ドライブウェイ開通		
47		瀬田川洗ぜき完成		
48		琵琶湖大橋、天ヶ瀬ダムできる。		
49		大中ノ湖南遺路本格的調査		
52		南郷水産センターできる。大中ノ湖干拓ほぼ完成		
54		三上、田上、信楽を県立自然公園に指定。		
57	県公害防止条例できる			
平成	平成	45	水質汚濁防止法成立	滋賀県自然環境保全条例できる
		47	琵琶湖総合開発特別措置法成立	琵琶湖開発事業着手
		48	琵琶湖総合開発特別措置法成立	国鉄湖西線が開業
		49	琵琶湖総合開発特別措置法成立	琵琶湖に赤潮発生
		52	琵琶湖総合開発特別措置法成立	野洲川放水路通水「琵琶湖富栄養化防止条例」施行
		54	琵琶湖総合開発特別措置法成立	草津市矢橋の湖南中部流域下水道浄化センター
		57	琵琶湖総合開発特別措置法の一部改正法が成立	第一期工事が完成した供給開始
		59	湖沼水質保全特別措置法成立	沖島特定環境保全公共下水道が完成
平成	平成	4	阪神・淡路大震災	第1回世界湖沼会議開催
		5		琵琶湖開発管理開始
		6		琵琶湖、ラムサール条約登録湿地に認定
		7		北湖に初のアオコ発生、琵琶湖大濁水(-1.23m、9/15)
		8		滋賀県生活排水対策の推進に関する条例公布
		9		琵琶湖環境基本条例の施行
		12		琵琶湖総合開発事業終結
		15		滋賀県「マザーレイク計画」を策定
平成	平成	12	琵琶湖総合開発特別措置法失効	第9回世界湖沼会議開催
		15		第3回世界水フォーラム開催

出典：琵琶湖工事事務所「琵琶湖水環境図説」一部加筆

### 7.3.2 近年の動向

#### (1) マザーレイク 21 計画

マザーレイク 21 計画(琵琶湖総合保全整備計画)は、健全な琵琶湖を次世代に引き継ぐため、県民総ぐるみによる琵琶湖総合保全の指針として、国の関係する旧 6 省庁(国土庁、環境庁、厚生省、農林水産省、林野庁、建設省)による琵琶湖の総合的な保全のための計画調査を踏まえて、2000(平成 12)年 3 月に「マザーレイク 21 計画(琵琶湖総合保全整備計画)」が策定された。

#### □ マザーレイク 21 計画の理念

《基本理念》琵琶湖と人との共生

琵琶湖を健全な姿で次世代に継承します。

《基本方針》① 共感 人々と地域との幅広い共感

② 共存 保全と活力のある暮らしの共存

③ 共有 後代の人々との琵琶湖の共有

《全県をあげた取組－協働－》

県民、事業者の主体的な取組を基本に、各主体が積極的に取り組み、これを支援するため、県と市町は連携を図ることとしている。

また、河川流域単位に、県民、事業者、市町、県等の各主体が一体となって取り組むこととしている。

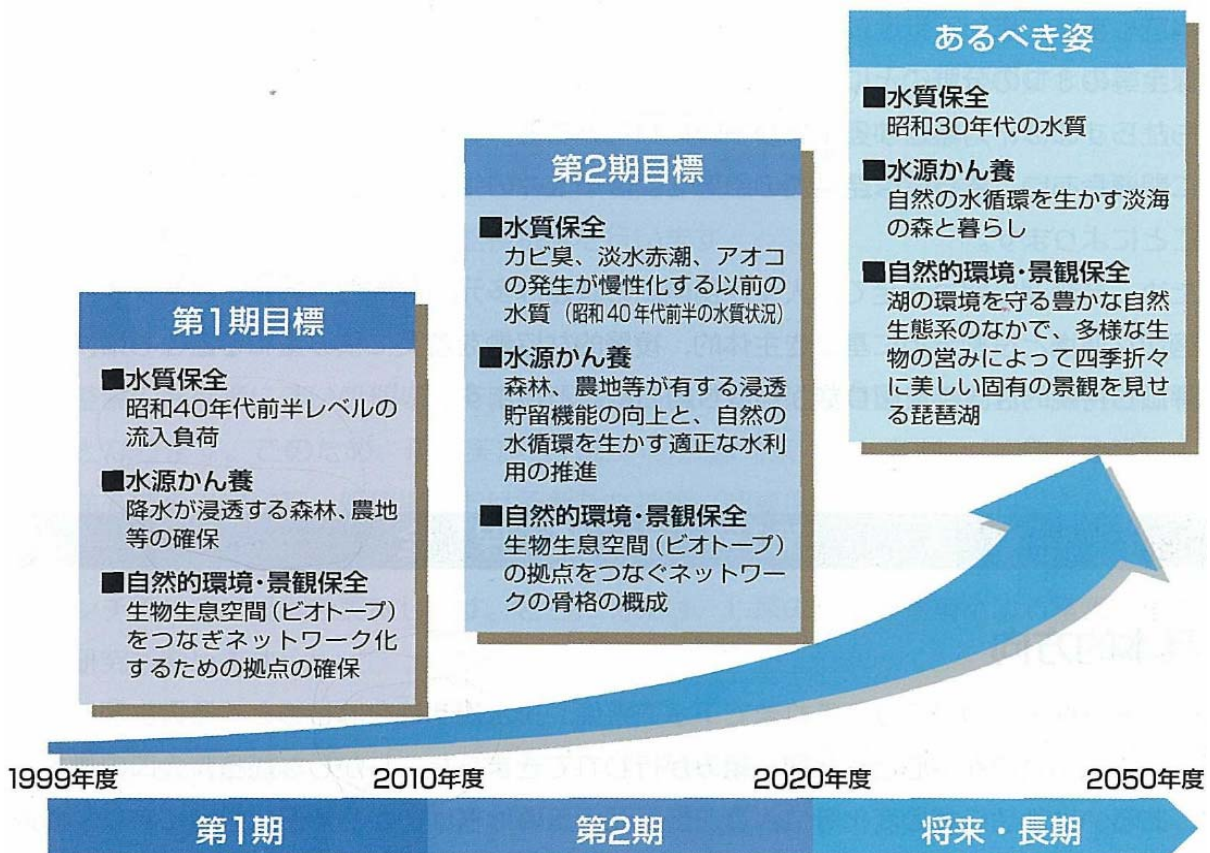


図 7.3-1 計画の目標及び対策と長期ビジョン(マザーレイク 21 計画)

## (2) 水辺エコトーンマスタープラン

2004（平成16）年3月に、マザーレイク21計画の基本的方向の柱である自然的環境・景観保全の取り組みの一環として、湖辺域ビオトープのへ保全・再生に向けて『水辺エコトーンマスタープラン』を滋賀県が策定した。

水辺エコトーンマスタープランに基づき、湖辺域の水域移行帯（エコトーン）の保全再生（Ex: ヨシ群落保全計画）を進めるとともに、琵琶湖固有の生態系を保全するとともに水産資源確保の観点から外来魚対策にも取り組んでいる。

## (3) 琵琶湖・淀川流域圏の再生

### 1) 都市再生のプロジェクト

2003(平成15)年11月28日、第6次都市再生プロジェクト「琵琶湖・淀川流域圏の再生」の実現を図るため、関係省庁及び地方公共団体等が、流域全体での一体的な取り組み体制を構築し、再生計画を策定した。「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに流域圏の関係機関が連携し、「歴史・文化を活かし自然と共生する流域圏・都市圏の再生」の実現を図ることとしている。

本計画の計画期間は、概ね今後5～10年間での具体化を目途とするが、より長期的（概ね20～30年間）な見通しを踏まえながら取り組むこととなっている。

### 2) 琵琶湖・淀川流域圏の再生の推進

「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」は、琵琶湖・淀川流域圏を健全な姿で次世代に継承するため、「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに、流域圏のあらゆる関係機関が連携して本計画を推進し、「歴史・文化を活かし自然と共生する流域圏・都市圏の再生」の実現を目指すこととしている。

5つの再生プログラムを構築し、達成度、効果等の評価を年度ごとに行っている。

#### みずべプロムナードネットワーク

琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキング等でゆったりと味わい・楽しみ・学びながら、周遊できる水辺のネットワークを構築する。

#### 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

淡水生物の宝庫である琵琶湖・淀川流域圏の多様な生態系を保全再生するため、希少種等の在来種の保全を視野に入れ、それらを取り巻く生物の生息・生育環境を保全再生する。

#### 水辺の賑わい創出

琵琶湖・淀川流域圏において、まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」、水辺にふれあい、楽しむことができる「親水空間の再生・創出」を図り、人々が集い、活気に満ちた水辺を創出する。

#### 流域水環境再生

琵琶湖・淀川流域圏の水環境に関する様々な課題に対して、森林地域や農村地域だけではなく、流域の恵みを享受する都市部が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼のさらなる水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現する。

□ 流域連携

琵琶湖・淀川流域圏の各種課題に対し、地域間・主体間・分野間で連携した一体的な取り組みを継続性のあるものとするため、行政間の連携を推進する組織、市民・NPO・自治体等のネットワークの構築、また、これらを連携する組織を設置する。

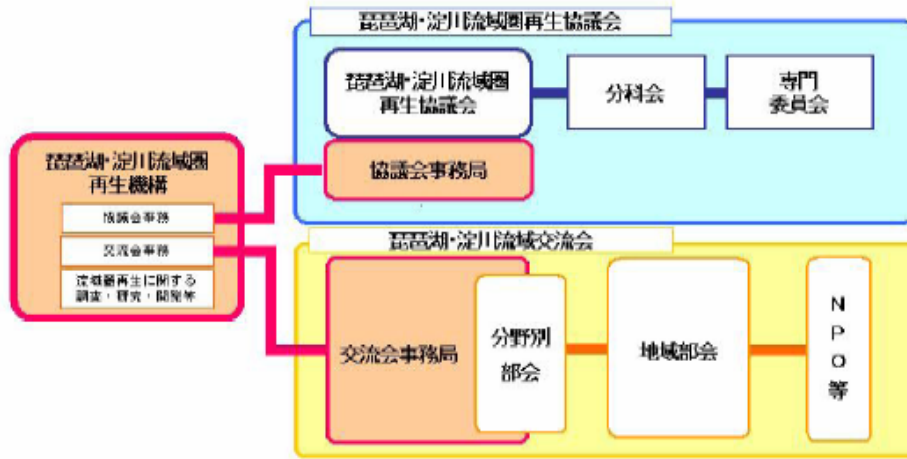


図 7.3-2 琵琶湖・淀川再生機構の仕組み

(4) 淀川水系流域委員会

1997（平成 9）年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」の目的に追加された。また、これまでの「工事实施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後 20～30 年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入された。

「淀川水系流域委員会」は、淀川水系の「河川整備計画」について学識経験を有する者の意見を聴く場として、2001（平成 13）年 2 月 1 日に近畿地方整備局によって設置され、2008 年 12 月 31 日現在までに 80 回以上の委員会開催をはじめ、インターネット等から多くの意見が寄せられている。

淀川水系流域委員会には琵琶湖部会が設置され、水陸移行帯の回復について議論がされた。これを受けて国土交通省は、琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度により「水陸移行帯 WG」を設置し、瀬田川洗堰の試行操作について意見をいただいている。



図 7.3-3 淀川水系流域委員会の取り組み（ホームページ掲載）

出典：淀川水系流域委員会 HP

## 7.4 地域連携のための水機構の取り組み

琵琶湖開発事業と地域社会との関わりとして、琵琶湖及びその流域で実施された主なイベントとの動向について、近年3カ年の水資源機構が主催や参加をした主要なイベントの概要を表6.3-1に示す。また、いくつかのイベントの実施風景を図6.3-1に、出前講座の開催内容を図6.3-2に示す。

表 7.4-1 近年3カ年における主要なイベント一覧(1)

	開催日	イベント	概要
2005 (H17)	4月17日	吉川ビオトープにヨシを植えましよう	平成16年度の堤脚水路改修に併せて造成したビオトープにおいて、ヨシおよびヤナギの植栽等を行った。
	4月17日 6月19日 2月18日	堆肥配布イベント	琵琶湖管理の過程で発生した刈草堆肥を下笠揚陸施設において一般配布した。
	5月15日 5月30日 6月12日	自然観察会	以前普通にみられたうおじま（出水時に魚が大群をなして遡上する様子）や田んぼへの産卵の風景を復活させ、琵琶湖固有種であるニゴロブナやホンモロコなどを増やす取り組みを実施しており、その一環として、昨年度施工した「新旭町田んぼ池」を活用して、地域の方々や子供を対象とした自然観察会を開催した。
	10月2日	自然観察会	針江大川をカヌーで下って針江大川や琵琶湖沿岸の自然を観察した。
	7月23日	親と子の琵琶湖たいけん教室	琵琶湖・淀川流域に在住する小学生の親子35組70人を対象として、観光船で琵琶湖をクルージングしながら、水質調査や顕微鏡でプランクトンの観察、講師による講座等を行った。
	7月24日 8月5日	排水機場説明会	大同川・排水流域、米原排水流域の区長に開発事業・機場の説明を行った。
	8月9日	薪配布	湖岸堤前浜の維持管理により生じる伐採木の有効利用を図るため、近江兄弟小学校に提供を行った。
	8月28日	よしよしプロジェクト粗朶消波工設置とヨシ植栽	NPOと連携し、2m×10mの粗朶消波堤および竹筒を利用したヨシの植栽（100本）を実施した。
	9月27日 9月28日 2月28日	出前講座	地域の小中学校生徒を対象に琵琶湖の環境講座、水質実験、施設見学等を実施した。 近江兄弟社では治水・利水・環境についてと施設見学、米原中では水質について、枚方招堤小では琵琶湖の環境問題について講座を行った。
	11月13日	あやめ浜松林整備	琵琶湖湖岸の美しい景観を保全するための湖岸堤前浜の整備の一環として、地域の住民と連携し、松林の間伐、チップづくり、チップ材を敷き均して歩道を設置したほか、湖岸のゴミ拾い等を実施した。



表 7.4-1 近年3カ年における主要なイベント一覧(2)

開催日	イベント	概要
5月14日 5月28日 6月11日	自然観察会	以前普通にみられたうおじまや田んぼへの産卵の風景を復活させ、琵琶湖固有種であるニゴロブナやホンモロコなどを増やす取り組みを実施しており、その一環として、「新旭町田んぼ池」を活用して、地域の方々や子供を対象とした自然観察会を開催した。
10月25日	自然観察会	針江大川をカヌーで下って針江大川や琵琶湖沿岸の自然を観察した。
6月1日 7月31日	ニゴロブナ仔魚放流	田んぼ池上流水田のニゴロブナ仔魚放流試験の一環で、静里なのはな園の園児65名による放流イベントを実施し、2ヶ月後の7月31日に再び園児を招き、水田で成長したニゴロブナ稚魚の捕獲および琵琶湖への放流を行った。
6月25日 3月4日	堆肥配布イベント	下笠揚陸施設において刈草の堆肥化を行い、堆肥化した刈草については土地改良区、一般の方等に配布した。
7月29日	親と子の琵琶湖たいけん教室	琵琶湖・淀川流域に在住する小学生の親子35組70人を対象として、観光船で琵琶湖をクルージングしながら、水質調査や顕微鏡でプランクトンの観察、講師による講座等を行った。
2006 (H18) 8月10日 9月2日	排水機場説明会	地元に対して米原・磯排水機場(8/10)、早崎下八木排水機場(9/2)にて説明会を実施した。
8月27日 10月1日	よしよしプロジェクト 粗朶消波工設置とヨシ植栽	NPOと連携し、2m×15mの粗朶消波堤を2基設置(8/27)するとともに、ヨシの植栽(380本)を実施(10/1)した。
7月4日 7月6日 10月5日 10月11日 10月12日 2月7日 2月15日 2月16日 2月20日	出前講座	地域の小中学校生徒を対象に琵琶湖の環境講座、水質実験、施設見学等を実施した。
11月17日～ 11月19日	琵琶湖水辺の環境展～めぐみの湖、琵琶湖を守る～	琵琶湖の水を利用している方々を対象に、琵琶湖での取り組みをブース展示、パネルにて紹介。多くの方が訪れました。
11月18日	あやめ浜松林整備	琵琶湖湖岸の美しい景観を保全するための湖岸堤前浜の整備の一環として、地域の住民と連携し、松林の間伐、チップづくり、チップ材を敷き均して歩道を設置したほか、湖岸のゴミ拾い等を実施した。

表 7.4-1 近年3カ年における主要なイベント一覧(3)

開催日	イベント	概要
6月1日 7月30日	ニゴロブナ仔魚放流	田んぼ池上流水田のニゴロブナ仔魚放流試験の一環で、静里なのはな園児を含む48名による放流イベントを実施し、2ヶ月後の7月30日に園児と地元子供会他52名を招き、水田で成長したニゴロブナ稚魚の捕獲および琵琶湖への放流を行った。
5月13日 5月27日 6月10日	自然観察会	以前普通にみられたうおじまや田んぼへの産卵の風景を復活させ、琵琶湖固有種であるニゴロブナやホンモロコなどを増やす取り組みを実施しており、その一環として、「新旭町田んぼ池」を活用して、地域の方々や子供を対象とした自然観察会を開催した。
10月14日	自然観察会	針江大川をカヌーで下って針江大川や琵琶湖沿岸の自然を観察した。
8月5日 8月10日 8月30日 8月31日 9月5日	施設説明会	地元に対する大同川排水機場説明会 〃 米原・磯排水機場説明会 〃 稲枝排水機場説明会 〃 早崎下八木排水機場説明会 〃 草津市排水機場説明会を各種実施した
7月21日	親と子の琵琶湖 たいけん教室	琵琶湖・淀川流域に在住する小学生の親子35組70人を対象として、観光船で琵琶湖をクルージングしながら、水質調査や顕微鏡でプランクトンの観察、講師による講座等を行った。
7月22日 3月2日	堆肥配布イベント	下笠揚陸施設にて湖岸堤維持管理で発生した刈草の堆肥化を行い、完成した刈草堆肥は一般配布とあわせて土地改良区に無料提供した。
7月12日 10月10日 11月7日 11月8日 2月6日 2月19日 2月23日	出前講座	地域の小中学校生徒を対象に琵琶湖の環境講座、水質実験、施設見学等を実施した。
12月1日	ヨシ植栽 あやめ浜整備	あやめ浜にてヨシ植栽、周辺のゴミ拾い等実施した。
12月8日 2月2日	特定外来生物指定 植物種（ミズヒマ ワリ）の駆除	琵琶湖で侵入が確認された特定外来生物指定植物種のミズヒマワリの分布拡大を阻止する早期駆除活動に参加協力した。
12月9日 2月23日	ヨシ群落再生	粗朶消波工とヨシ植栽を実施した箇所において、漂砂の影響によりヨシの定着が良好でなかったことから、漂砂対策として蛇籠漂砂防止堤の設置、漂砂の除去を行うとともに、NPOと連携し、粗朶消波工の補修・ヨシの植栽（約300本）を実施した。
3月15日	新浜親水広場植樹 イベント	新浜親水広場にて苗木の植樹及びネームプレートの設置を行った。

2007  
(H19)



平成 18 年 6 月 1 日  
 ～ひわこのさかなをふやそう！ in 太田～ ニゴロブナ仔魚の琵琶湖への放流イベント



堆肥化状況



配布イベント

平成 18 年 6 月 25 日・平成 19 年 3 月 4 日  
 堆肥配布イベント



平成 18 年 7 月 29 日  
 親と子の琵琶湖たいけん教室

図 7.4-1(1) イベント風景 (1)



消波堤への粗朶入れ



ヨシの植栽

平成 18 年 8 月 27 日・10 月 1 日

～ヨシ群落の再生への粗朶消波堤づくりとヨシ植栽～



平成 18 年 11 月 17～19 日

琵琶湖水辺の環境展



平成 18 年 11 月 18 日

あやめ浜松林整備

図 7.4-1(2) イベント風景 (2)



平成 19 年 1 月 24 日

アクア琵琶と小学校を結んだインターネット授業



平成 19 年 5 月 13 日

自然観察会（新旭町太田田んぼ池）



平成 19 年 8 月 31 日

「琵琶湖の日」清掃活動(大津市内)

図 7.4-1(3) イベント風景 (3)



平成 19 年 7 月 12 日、10 月 10 日、11 月 7 日、11 月 8 日、平成 20 年 2 月 6、19、23 日  
出前講座



平成 19 年 8 月 31 日

早崎下八木排水機場説明会



平成 19 年 12 月 8 日

「ヨシ刈りを楽しもう」～水辺のヨシ原と歴史の里を巡る～

図 7.4-1(4) イベント風景 (4)



平成 19 年 12 月 8 日、平成 20 年 2 月 2 日

特定外来生物指定植物種（ミズヒマワリ）の駆除

図 7.4-1(5) イベント風景 (5)



図 7.4-2 ホームページ上で紹介している出前講座の開催

## 7.5 周辺の状況

### 7.5.1 周辺施設の状況

#### (1) 水のめぐみ館「アクア琵琶」

「アクア琵琶」は、国交省と水機構が瀬田川洗堰近くに、常設の河川管理施設として共同設置したものである。常時は資料館としての機能を主体として、瀬田川洗堰の歴史を始めとして、琵琶湖の水利用の歴史や総合開発、瀬田川の砂防など琵琶湖と淀川水系について、様々な角度から紹介されている。

図 7.5-1 に来館者数の推移を示し、図 7.5-2 に月別の来館者数を示した。1992(平成4)年11月に開館し、1年間に約4万～6万人の入館者がある。2006(平成18)年度の来館者数は約53,600人であった。また、季節別では5月、8月を中心として春～夏季に来館者数が多い。

アクア琵琶における展示構成を見ると、敷地内には1990(平成2年)年に大阪で開催された花と緑の博覧会「EXPO'90」で使用された「雨体験室」もあり、各降雨強度による降雨を体験することができるようになっている。

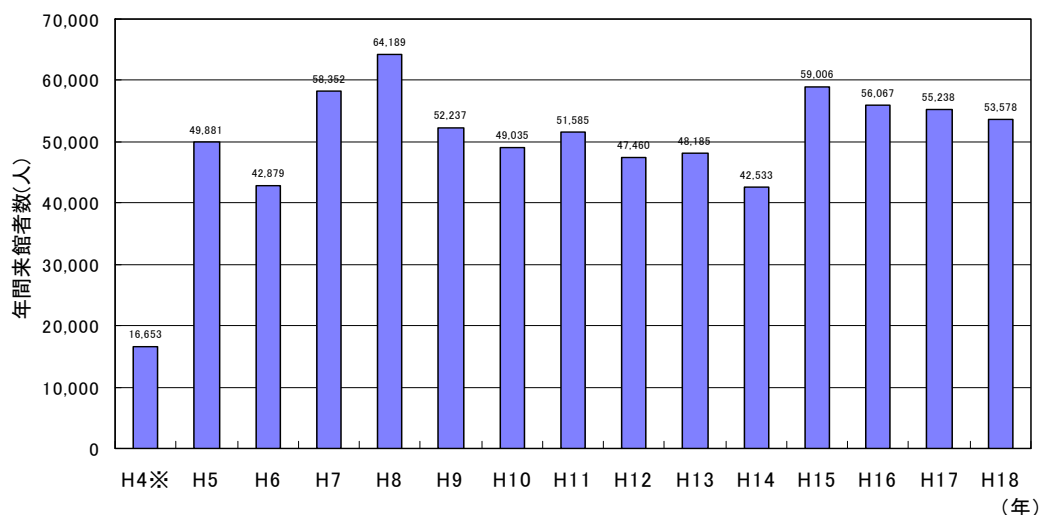


図 7.5-1 アクア琵琶への年間来館者数 ※1992(H4)年度は、11～3月の来館者数

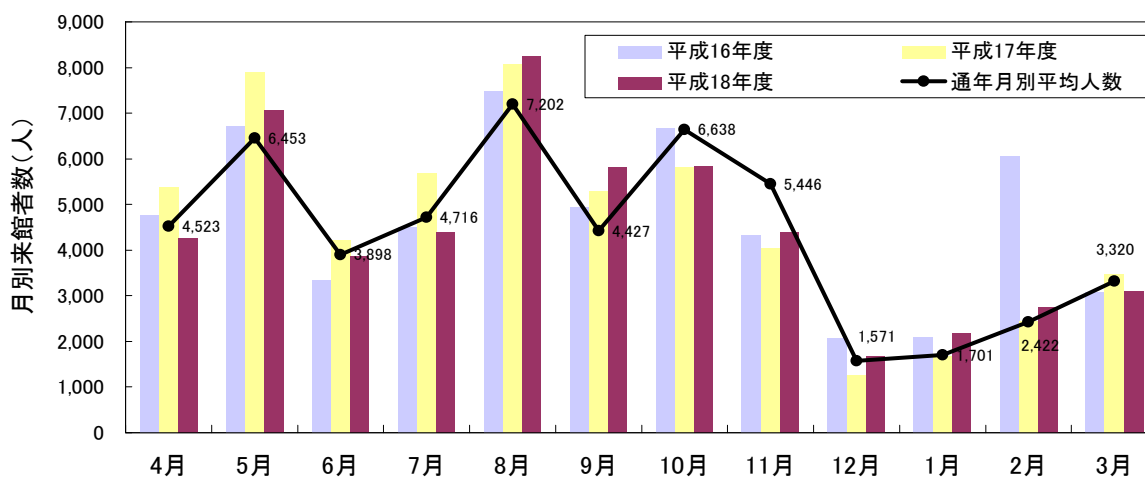


図 7.5-2 アクア琵琶への月別来館者数





図 7.5-3 アクア琵琶



図 7.5-4 アクア琵琶展示構成

出典：水のめぐみ館アクア琵琶 <http://www.aquabiwa.jp>

「アクア琵琶」は滋賀県内(48%)をはじめ、京都(20%)・大阪(13%)・兵庫(2%)といった下流府県からも多くの来館者を迎えている。

「アクア琵琶」には、琵琶湖・淀川の治水・利水の歴史および琵琶湖開発事業について紹介する映像や展示内容もある。「アクア琵琶」でのアンケートによれば、アクア琵琶によって“治水、利水、砂防の必要性を理解できた”、“琵琶湖総合開発事業を理解できた”人が約7割いる。

流域交流を掲げ、市民団体の拠点として運営している「ウォーターステーション琵琶」や水生動植物について知識を広げる施設として「南郷水産センター(滋賀県漁連)」などとの連携も実施しており、毎年、大阪で行われている環境展において、琵琶湖・淀川の水が大阪の飲み水として利用されていることを、アクア琵琶として広報している。

これらのことから、アクア琵琶は、上下流の交流に貢献しているものと言える。

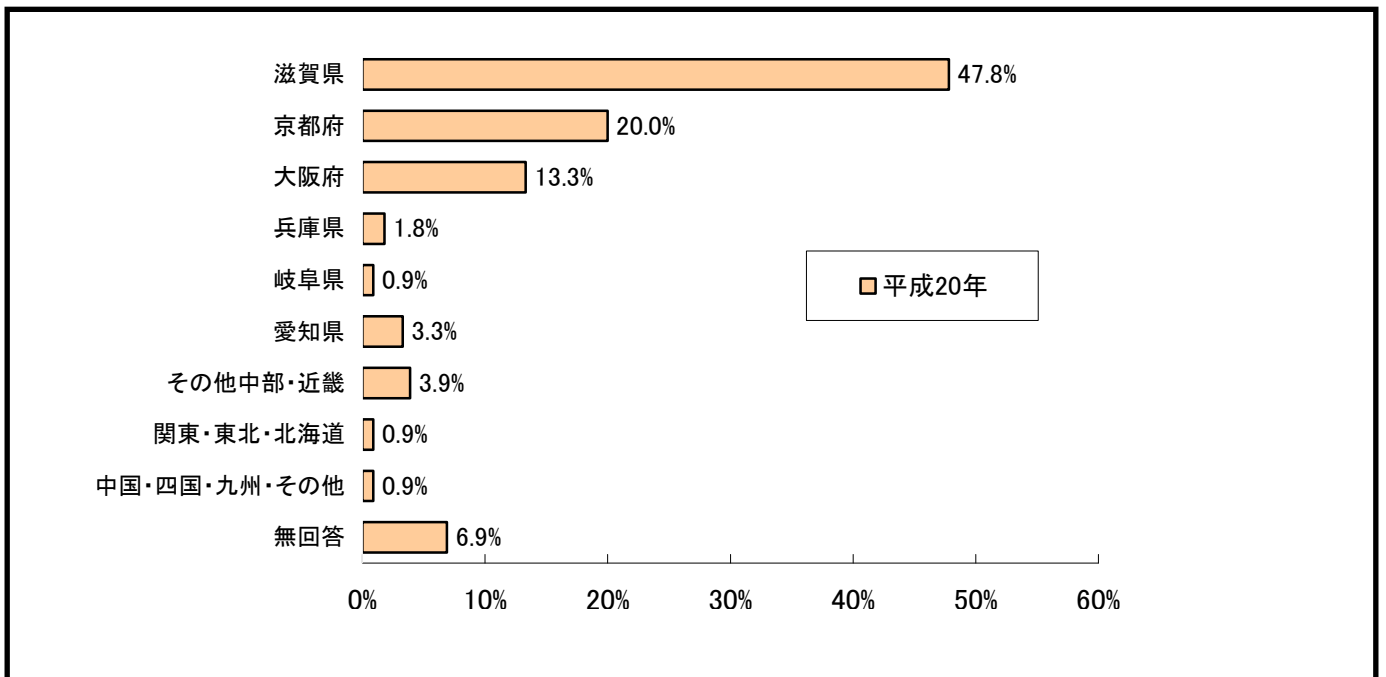


図 7.5-5 アクア琵琶に来館された方の割合(住所)

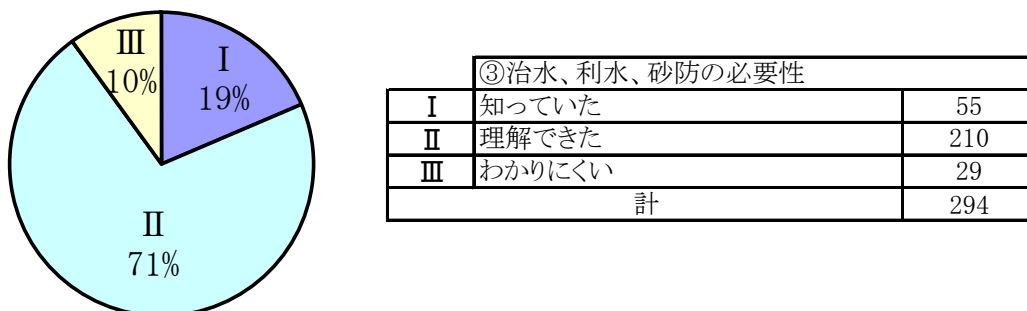


図 7.5-6 アクア琵琶に来館された方の来訪者の認知度に関するアンケート調査結果 (2008年11~12月調査) 出典：水のめぐみ館アクア琵琶より提供資料

また「アクア琵琶」は、洪水時、渇水時には洗堰操作担当者および上下流関係者が会して意見交換を行うことができる場所であり、今後は地域防災の拠点としての機能をより一層高めていく。

## (2) 烏丸半島

烏丸半島は琵琶湖開発事業時に諸工事のためのストックヤード及び土捨場として利用した。その後大規模な跡地整備を行い、滋賀県や草津市等による利活用が図られている。

主な利活用施設は、以下のとおりである。

- ・ 琵琶湖博物館（滋賀県）
- ・ 水生植物公園（草津市）
- ・ UNEP 国際環境技術センター（国連）
- ・ 烏丸記念公園
- ・ 多目的広場
- ・ その他駐車場等

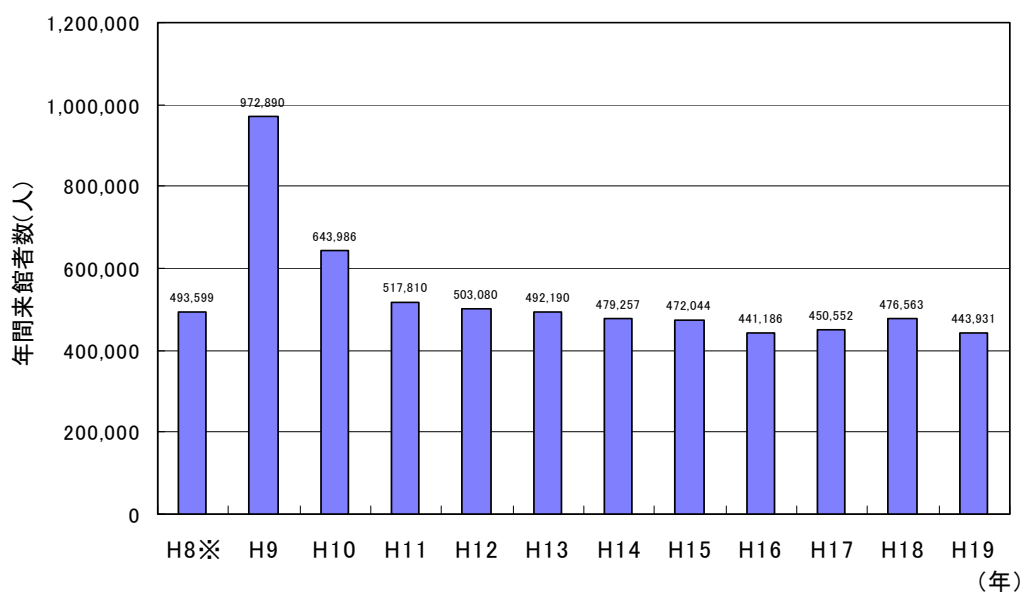


図 7.5-7 烏丸半島全景図

### 1) 琵琶湖博物館（滋賀県）

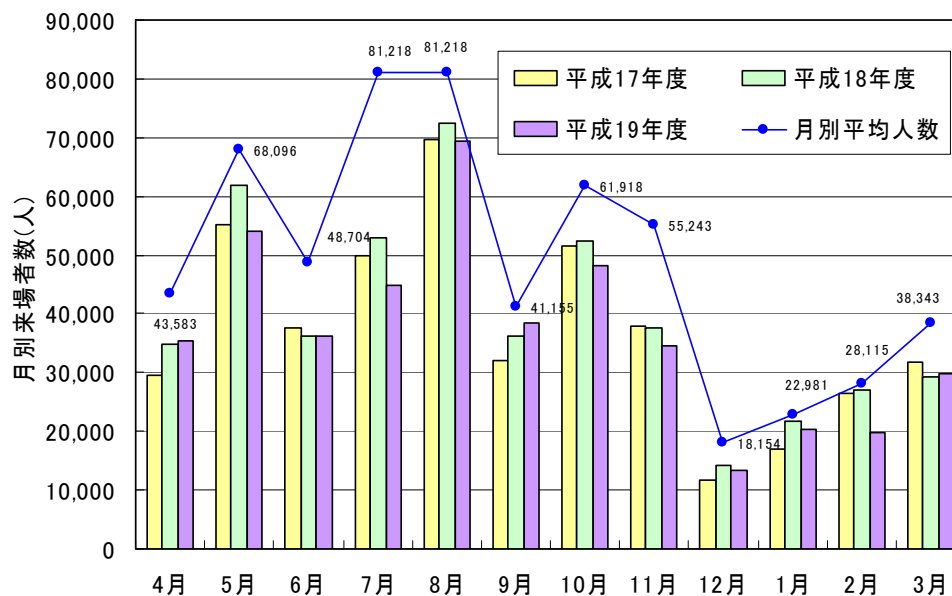
琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え、今後の望ましいありかたを探るための組織として、10年以上にわたるその準備を終え、1996（平成8）年4月に設置され、同年10月に一般公開された。これは研究施設であり、文化施設であり、生涯学習施設であって、交流と情報のセンターとしてもまた機能している。2007（平成19）年5月8日（火）に開館以来、例年40～50万人の来場者があり、入館者数延べ600万人に達している。

水生植物公園みずの森とも隣接しており、徒歩5分の距離にあり、共通券等を発行している。



※H8年度は、10～3月の来場者数

図 7.5-8 琵琶湖博物館への年間来館者数



※月別平均人数は、1992(H4)年11月から2007(H19)年3月までの各月平均値とする。

図 7.5-9 琵琶湖博物館への月別来館者数

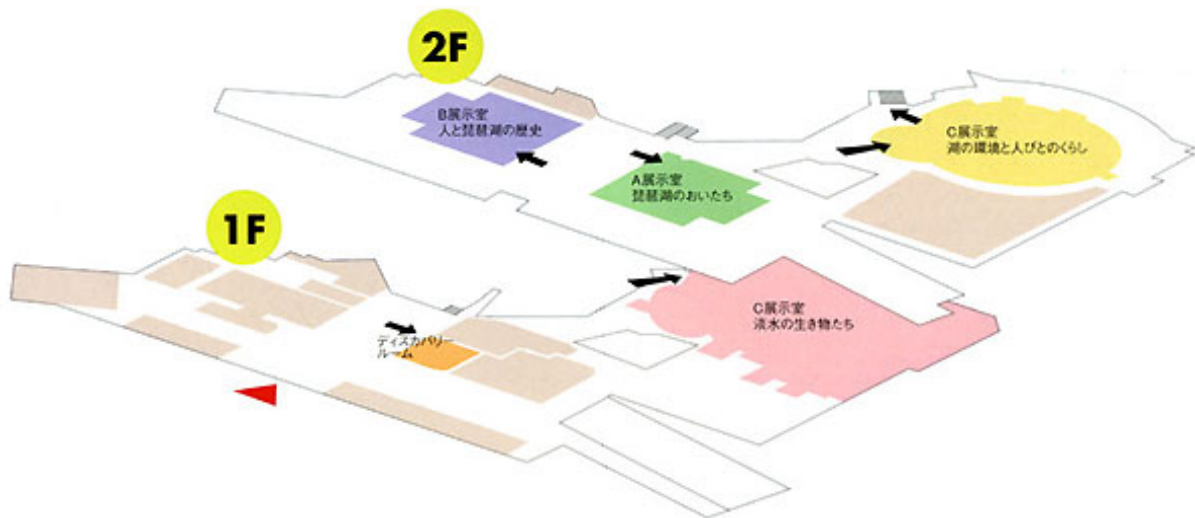


図 7.5-10 琵琶湖博物館の常設展示

□ 施設内容の紹介

- ① 水族館(4,304m<sup>2</sup>、ビワコオオナマズ、ビワマス、ホンモロコ等 209 種 28,571 点)
- ② 農園(水稲、体験農園)
- ③ 展示館(23,987m<sup>2</sup>、琵琶湖博物館「湖と人間」がテーマの総合博物館)
- ④ 物販施設(1 ヲ所、106m<sup>2</sup>、委託)
- ⑤ 飲食施設(1 ヲ所、264m<sup>2</sup>、70 席、委託、TS 屋内 70 席)

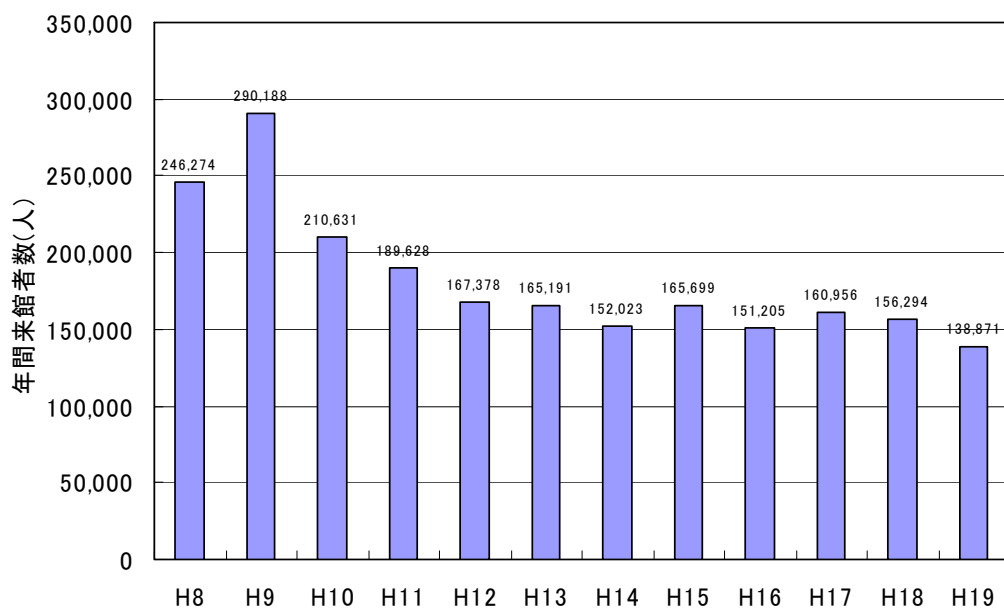
□ 主な開催イベント

- ・ 2007 (平成 19)年度 博物館探検 2007(平成 19)年 11 月
- ・ シンポジウム 東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-2007(平成 19)年 7 月
- ・ 企画展示 『湖沼～水、魚、そして人、東アジアの中の琵琶湖』 2006(平成 18)年 7 月
- ・ 2006(平成 18)年度 琵琶湖博物館研究(生態系研究流域)発表会 2006(平成 18)年 12 月

出典：滋賀県立琵琶湖博物館 HP

2) 水生植物公園みずの森 (草津市)

1996(平成 8)年 7 月開業、草津市域の最北、琵琶湖に突き出す烏丸半島周辺には約 13ha (2004(平成 16)年 10 月 1 日撮影の航空写真より計測：草津市商工観光労政課) にも及ぶわが国有数の蓮の群生地があり、琵琶湖の原風景といわれるヨシ原が今もその姿をとどめている。毎年盛夏の頃にはこの広大な景観が多くの観光客の目を楽しませている。半島ではこうした自然環境の保全をモチーフにした「水生植物公園みずの森」、「くさつ夢風車」(風力発電施設)があり、水環境の保全にかかるノウハウと情報を世界に向けて発信する拠点となっており、例年 15 万人前後の来場者数となっている。



※1996(H8)年度は、7～3月の来場者数

図 7.5-11 水生植物公園みずの森への年間来館者数

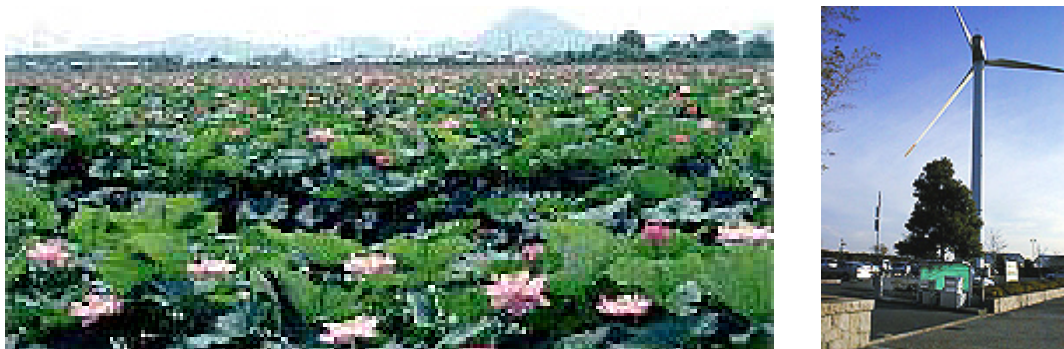


図 7.5-12 ハスの群生地とくさつ夢風車

出典：草津市水生植物公園みずの森 HP

□ 施設内容の紹介

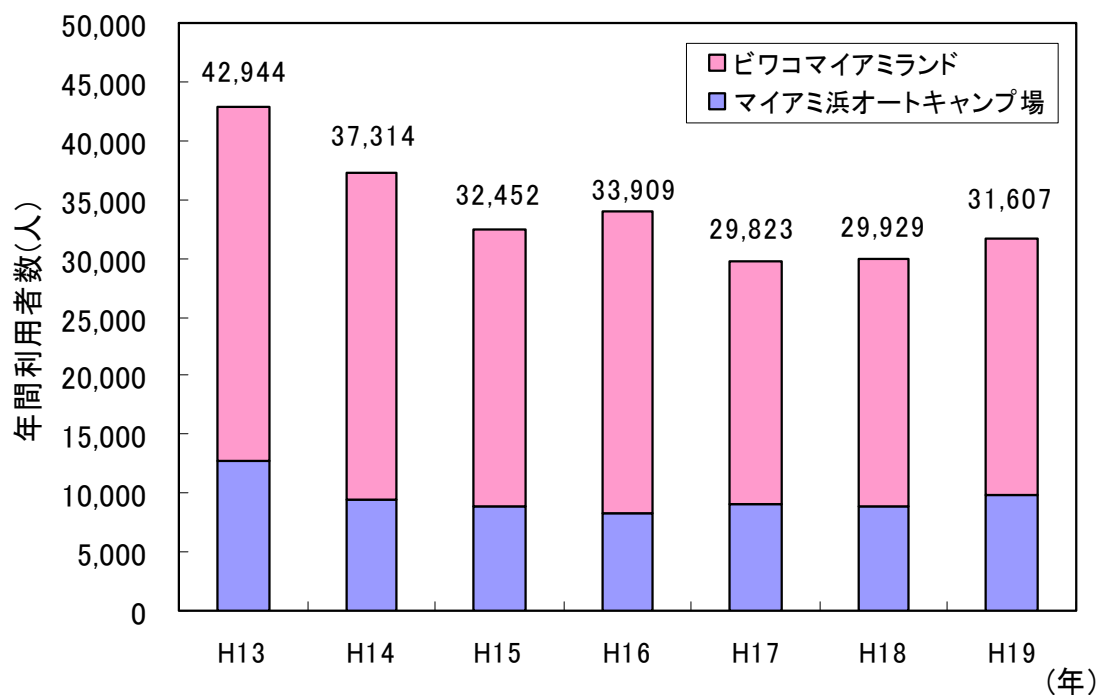
- ① 植物園(ハス、スイレン等水生植物、針葉樹等)
- ② 展示館(ロータス館 [映像ホール、ハス等の科学・文化・芸術に関する展示] )
- ③ 物販施設(1カ所、委託)
- ④ 飲食施設(1カ所、委託、喫茶、軽食)

□ 主な開催イベント

- ・スプリング・フェスタ・イン みずの森 2007 2007(平成 19)年 4月(毎年開催)
- ・サマー・フェスタ・イン みずの森 2007 2007(平成 19)年 6月(毎年開催)
- ・オータム・フェスタ・イン みずの森 2007 2007(平成 19)年 9月(毎年開催)

### (3) マイアミ浜（第三セクター）

1994(平成 6)年 4 月にオープンしたビワコマイアミランドは沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の環境にある。この恵まれた大自然の中で、キャンプやテニス、ローンフィールド、バードウオッチング等を楽しめ、また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できる施設である。例年 3 万人前後の利用者数となっている。



※ 上記利用者数値は、マイアミ浜オートキャンプ場とマイアミランド利用者数の合計値  
※ ビワコマイアミランド利用者数には、自由広場・テニスコート・パターゴルフ場利用者を含む

図 7.5-13 年間利用者数

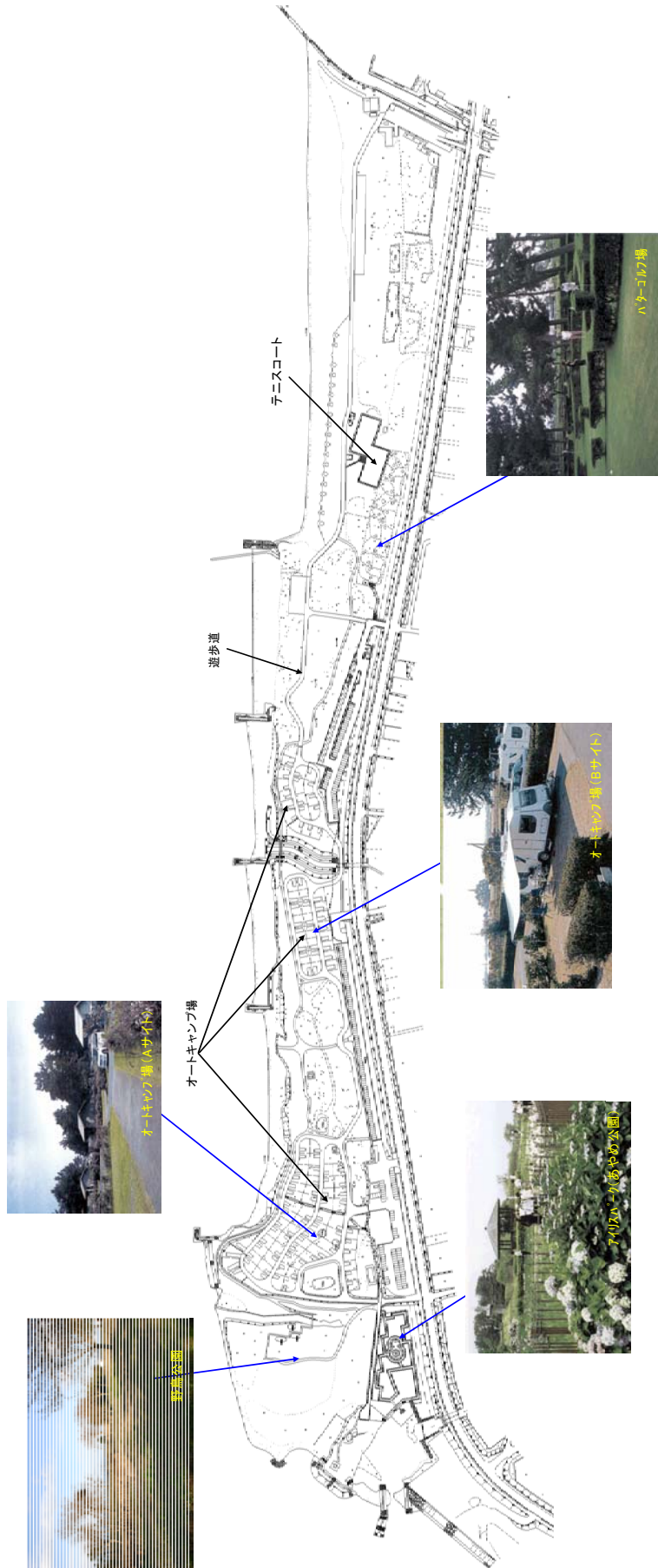


図 7.5-14 ビブコマイアミ浜の施設配置図



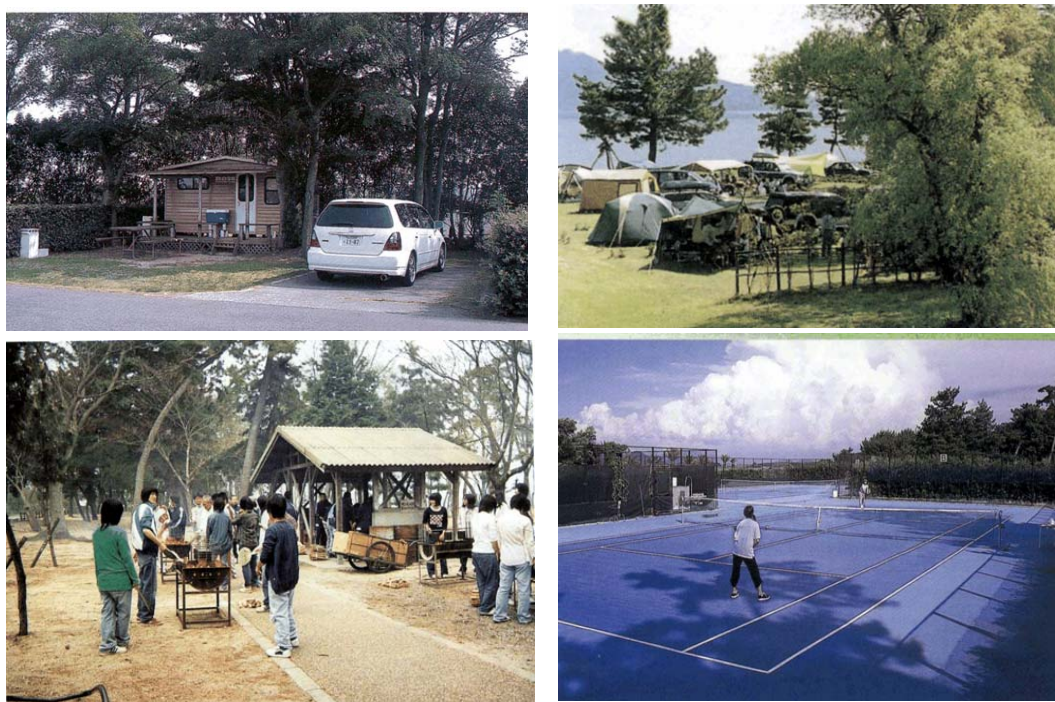


図 7.5-15 マイアミ浜オートキャンプ場利用状況

#### (4) 湖岸や前浜の利活用

琵琶湖開発事業により、湖岸堤・管理用道路を整備するとともに、滋賀県では湖岸周辺にあった道路も改装や付け替えなどの整備を行っている。これらにより琵琶湖の湖辺を一周できる道路網が形成され、産業や暮らし、観光に活用されているほか、サイクリング、ジョギング等の余暇活動にも利用されている。

また、湖岸堤の設置にあたっては、堤防本体と汀線（陸と湖との境界）との間に前浜を設け、琵琶湖に生きる多くの生きものたちにとって大切なエリアとして、また、水辺を最大限に活用した親水空間として利活用されている。都市部（京都、大阪、神戸や名古屋）から数時間で行くことができることもあって、一年を通じて多くの方々が訪れ、キャンプやバーベキュー、テニス、パターゴルフ、ウォータースポーツ、魚釣りといったレジャーや散策、バードウォッチングといった多種多様な趣味や余暇活動に利用されている。また、親水空間としての利活用、市民や NPO が主体となった美化活動等が実施されている。



図 7.5-16 湖岸堤・管理用道路の利用状況



守山市

高島市 新旭町

近江八幡市牧水泳場

草津市

図 7.5-16 前浜の活用事例



びわ湖岸 なぎさ公園美化活動 (守山市、平成 19 年 9 月 15 日)

びわ湖の自然をたずねる自然観察会 (守山市、平成 20 年 3 月 1 日)

図 7.5-17 琵琶湖周辺の活動事例

出典：都市公園湖岸緑地 HP:<http://www.ohmitetudo.co.jp/kogan/index.html>

### 7.5.2 周辺施設の利用状況

滋賀県が2005(平成17)年、2000(平成12)年に県内の観光地62地点を対象に観光客を対象に調査時期及び回答数を限定し実施したアンケート調査のため、利用人数の変化は把握できないものの調査結果によれば、滋賀県(琵琶湖)に訪れた人のうち、京都府・大阪府・兵庫県・愛知県など他府県からの来訪者が増加傾向にある。以上のことから、琵琶湖の下流ユーザーである京都府(12.9%)・大阪府(16.8%)・兵庫県(6.0%)が来訪者全体の1/3を占めていることが分かる。なお、来訪(旅行)目的は自然環境類や休息・保養、歴史文化といった利用が多い。

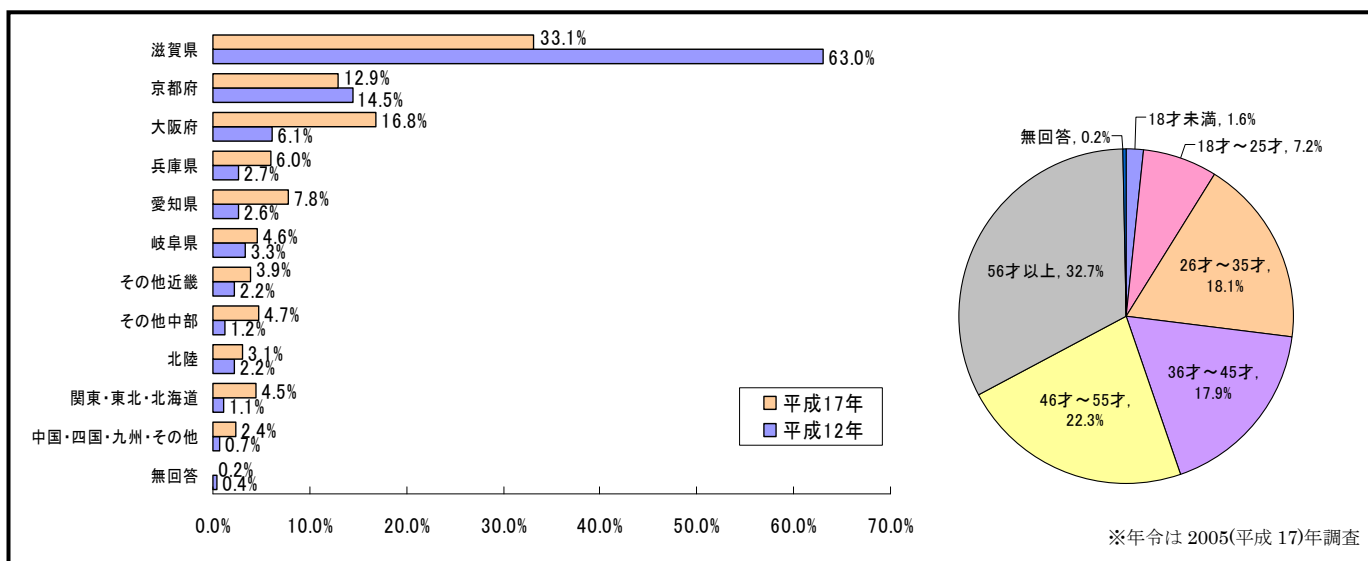


図 7.5-18 滋賀県に来訪された方の割合 (左：住所、右：年令)

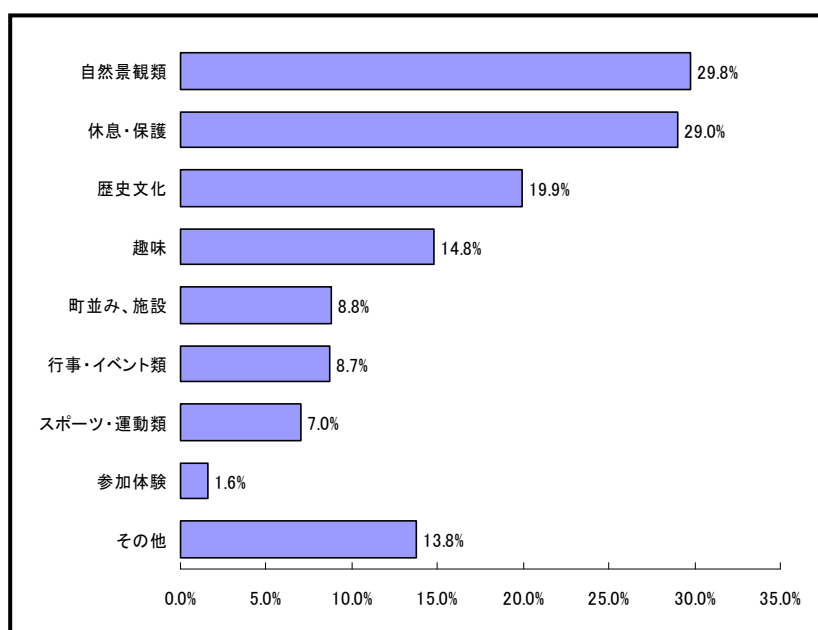


図 7.5-19 滋賀県に来訪された方の旅行目的に関する調査 (平成17年度調査)

出典：滋賀県観光動態調査結果(平成17年度)

### 7.5.3 周辺のイベント状況等

琵琶湖周辺地域では、国、県、市町村行政から市民団体及び NPO、水資源機構等関係団体が中心となって、地域活性化や地域交流に貢献している。以下に主なイベントを紹介する。

#### (1) 魚のゆりかご水田プロジェクトに基づくイベント

かつて、琵琶湖周辺の田んぼは、コイ、フナ、ナマズ等在来魚の格好の産卵生育の場であったが、琵琶湖総合開発やほ場整備事業等により乾田化に伴う水田と排水路の間に大きな落差が設けられた結果、魚が遡上しにくくなっている。そこで、滋賀県では、2001(平成13)年度から魚類の産卵生育の場としての水田を復活させるため、「魚のゆりかご水田プロジェクト」として取り組んでいる。独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所もこれまでに稚魚の放流や自然観察会の主催を行うなど当該プロジェクトに積極的に参画している。



図 7.5-20 水田への稚魚の放流状況



発行：平成18年7月13日  
番号：第3号  
発行所：滋賀県農林部農産課

## 湖南地域 みずすまし報告会

～みんなで考えよう農村地域の環境～  
湖南地域の魚のゆりかご水田の取組み事例

---

- ・日 時 平成18年7月24日(月)14時00分～15時00分
- ・場 所 滋賀県南部振興局 4階4A会議室  
(草津市草津3丁目14-1b-1K草津駅徒歩20分)
- ・発 着 会
  - ① ニゴロブナ稚魚の放流について  
津 田 宗 兼 さん (野洲川下流土地改良区)
  - ② ゆりかご水田菖蒲地区の取組みについて  
松 沢 博 さん (野洲市菖蒲)
- ・定 員 50名 (参加費は無料です。どなたでも参加できます。)
- ・申 込 み 住所または所属、氏名、連絡先を、FAX、電話、Eメールで下記まで  
(定員になり次第締め切りますので、お早め！)
- ・申込締切日 7月20日(木)
- ・主 催 湖南地域みずすまし推進協議会
- ・後 援 水土系ネット滋賀県南支部
- ・申込み、問い合わせ  
滋賀県南振興局田圃振興課( 幹 )  
TEL:077-507-5416  
FAX:077-564-2510  
E-MAIL: g320@pref.shiga.jp

---

住 所			
氏 名			

主催：(財)日本水田文化振興会 連絡先：(電話)077-547-1111

図 7.5-21 魚のゆりかご水田プロジェクト紹介 HP(左)とゆりかご通信事例(右)

出典：滋賀県 HP

## (2) 琵琶湖周辺 NPO によるびわ湖自然環境ネットワークの取組み

びわ湖自然環境ネットワークは、琵琶湖とその周辺の自然と環境を守るため行動する団体として1990年7月に発足したもので、毎年、琵琶湖水辺の環境と利用を考えるシンポジウムをはじめ、よしよしプロジェクト、自然観察会といった活動を実施している。独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所もこれまでにシンポジウムをはじめ、よしよしプロジェクトにおけるヨシ植栽や消波工の設置、自然観察会などにも参加している。



図 7.5-22 柴刈（粗朶作成）作業状況

## (3) 特定外来生物指定植物種（ミズヒマワリ）の駆除

近江ウエットランド研究会の主催のもと、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課、びわ湖自然環境ネットワーク等と協力して、琵琶湖で侵入が確認された特定外来生物指定植物種のミズヒマワリの分布拡大を阻止する早期駆除活動における駆除ボランティアを募集するなど定期的に実施している。独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所もこれまでにミズヒマワリの分布拡大を阻止する早期駆除活動に参加協力をしている。



**一環接合指定 特定外来生物**

**ミズヒマワリ 駆除ボランティア 大募集！**

ミズヒマワリ(キク科)は、ごく最近になって琵琶湖(東津湖の先端湖一帯など)に侵入した中津米原産の大型の水生の植物で、オーストラリアなどでは急激に大量殖して在来の水生植物や藻類に深刻な影響を与えており、国内でも関東・近畿・九州などの一部の水域では猛烈な勢いで増殖して、根絶が困難になっています。そのため、ブラックバスやブルーギルなどと同時に、環境省の特定外来生物に指定され、駆除や移殖への処置が禁止されている、とても厄介な植物です。



ミズヒマワリ



ミズヒマワリ駆除作業

このように、ミズヒマワリはいつの間にか定着してしまうと、根絶がきつめて困難になるので、琵琶湖での分布拡大を阻止するためには、**早期に完全に駆除してしまふ**必要があります。

そこで私たちは、昨年から計10回以上のミズヒマワリ駆除作業を兼ねてきました。その増殖力はずまじく、残念ながら**未だ根絶には至っていません**。そのため、12/6・12/7の両日、琵琶湖のミズヒマワリ駆除作業を実施することになりました。どちらか一日だけでもかまいません。**びわ湖の自然を守る皆さんのご参加を呼びかけます！**

**2008年12月6日(土)・7日(日) 小雨 決行**

< 集 会 > 午前9:30 滋賀県琵琶湖環境部(琵琶湖)東津湖 東部の堤防  
 ※この集会の際は、1日出席者から以下の書面にご署名下さい。出席は必ずご記入願います。  
 近江(上)川1日出席者名簿(出席時間9:00-16:20)  
 近江(下)川1日出席者名簿(出席時間9:00-16:20)

< 作業内容 > 水辺での外来水生植物駆除作業(9:20~16:20)  
 ※水辺での作業は多少なりとも危険が伴いますが、事故の発生は責任は負いません。  
 ※雨天の場合は延期、荒天(河川水位上昇)の場合は中止、その他、参加者など<参加者数の把握>、お手数ですが、参加者人数把握のために、朝日(12/5)までに、  
 ※代表者名、参加人数、連絡先を下記にご連絡下さい！

< 集 会 先 > 滋賀県立大学環境科学部 野間研究室内 近江ウエットランド研究会  
 E-mail: [uenv@u-nagaoka.ac.jp](mailto:uenv@u-nagaoka.ac.jp) Fax: 0749-28-6661

< 当日の問合せ > 大用等で中止する場合は、0749-28-4303の留守番電話で「中止」をお知らせします！

【注 意】近江ウエットランド研究会 代表 滋賀県立大学環境科学部 野間研究室  
 【協 力】滋賀県自然環境保全課、滋賀県水資源機構、滋賀県立大学、滋賀県琵琶湖環境科学センター

図 7.5-23 ミズヒマワリ駆除作業(左)と掲載新聞(中)及び駆除ボランティア募集チラシ(右)

表 7.5-1(1) 近年3カ年において地域住民、NPO等が主体となって水機構も関連して実施した主なイベント一覧(1)

	開催日	イベント	概要	
2005 (H17)	4月10日 4月24日 6月26日 8月6日 8月21日	よしよしプロジェクト	喜撰川河口に間伐材と柴による消波工を設置し、竹筒を利用したヨシの植栽を実施した。	
	4月16日 5月21日 6月18日 7月16日 3月19日 3月26日	魚がのぼれる川づくり	喜撰川中流の中浜地内において、落差工下流面に仮設魚道を設置して、魚が遡上出来るか等魚の調査を実施した。	
	5月15日 5月30日 6月12日	自然観察会	うおじまや田んぼへの産卵の風景を復活させ、琵琶湖固有種であるニゴロブナやホンモロコなどを増やす取り組みを実施しており、その一環として、昨年度施工した「新旭町田んぼ池」を活用して、地域の方々や子供を対象とした自然観察会を開催した。	
	10月2日	自然観察会	針江大川をカヌーで下って針江大川や琵琶湖沿岸の自然を観察した。	
	8月27日 10月1日	粗朶消波工設置とヨシ植栽	能登川町栗見新田にて2m×15mの粗朶消波堤を2基設置(8/27)するとともに、ヨシの植栽(380本)を実施(10/1)した。	
	1月15日 1月28日 3月21日	粗朶消波工設置	柴(粗朶)100束と間伐材252本を調達(1/15)し、高島市新旭町内にて、粗朶消波堤の柴の積み上げと結末を行った。	
	2月7日	水辺の環境と利用を考えるシンポジウム	NPO主催のもと、シンポジウムを開催し、琵琶湖ルールの検討等を実施した。	
	3月18日	魚のゆりかご水田プロジェクト	水田魚道の施工、ウォーキング、観察・説明会を実施した。	
	2006 (H18)	4月16日 8月20日 8月27日 9月18日 10月1日 3月18日	よしよしプロジェクト	消波堤の補強と、竹半割を使ったヨシの植栽を実施した。
		6月10日 6月24日 2月10日 2月11日 3月10日	魚のゆりかご水田プロジェクト	県や自治体の主催のもと、生き物観察等を行った。

表 7.5-1(2) 近年3カ年において地域住民、NPO等が主体となって水機構も関連して実施した主なイベント一覧(2)

	開催日	イベント	概要
2006 (H18)	9月23日	びわ湖・藻刈りまっか大会	大津市内において湖岸、湖上での藻刈り作業の体験や藻刈り道具・風景の紹介等を行った。
	11月18日	あやめ浜松林整備	野洲市あやめ浜にて琵琶湖湖岸の美しい景観を保全するための湖岸堤前浜の整備の一環として、地域の住民と連携し、松林の間伐、チップづくり、チップ材を敷き均して歩道を設置したほか、湖岸のゴミ拾い等を実施した。
	2月4日	水辺の環境と利用を考えるシンポジウム	NPO主催のもと、シンポジウムを開催し、琵琶湖ルールの検討等を実施した。
2007 (H19)	6月23日 6月30日	魚のゆりかご水田プロジェクト	自然観察会を、野洲市菖蒲地区(6/23)、近江八幡市佐波江地区(6/30)のゆりかご水田において実施した。
	9月15日	琵琶湖の魚の最新情報交換	ウォーターステーション&Biyoセンターにて琵琶湖周辺での取り組みについて情報交換を行った。
	11月23日	ゆりかご水田シンポジウム	琵琶湖博物館にて、ゆりかご水田に関わる取り組み事例の紹介を行った。
	11月23日 12月9日 2月23日	よしよしプロジェクト	栗見新田地区にて設置した消波堤の柴刈り、補修及びヨシ植栽を実施した。
	12月8日 2月2日	ミズヒマワリ駆除イベント	草津市矢橋地区にて、近江ウエットランド研究会の主催のもと、ミズヒマワリの人力駆除を実施した。

## 7.6 まとめ

- ・ 琵琶湖開発事業の周辺施設等は、多くの市民に利用され、琵琶湖特有の歴史、役割、環境等について広く啓発、教育の場として利活用されている。
- ・ 国、県、NPO 等と連携した様々な取り組みを行っており、地域との連携協力を努めている。

### 今後の方針

- ・ 今後も関係機関や地域との連携を深めていく。
- ・ 琵琶湖は淀川流域の貴重な水源であり、環境保全の重要性などについて上下流交流を促進し、活動を進めていく。



## 7.7 文献リスト

琵琶湖の周辺地域動態に係わるとりまとめのため、以下の資料を収集整理した。

表 7.7-1 「6.周辺地域動態」に使用した資料リスト

No.	文 献 ・ 資 料 名	発 行 者	発 行 年 月	備 考
6-1	琵琶湖総合開発 25年のあゆみ	独立行政法人水資源機構 琵琶湖総合管理所	2007(平成19)年10月 18日更新	
6-2	総務省統計局 HP [ <a href="http://www.stat.go.jp/">http://www.stat.go.jp/</a> ]			
6-3	農林水産省 HP 「統計情報より」 [ <a href="http://www.maff.go.jp/">http://www.maff.go.jp/</a> ]			
6-4	滋賀県 HP [ <a href="http://www.pref.shiga.jp/">http://www.pref.shiga.jp/</a> ]			インター ネット HP
6-5	独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理 所 HP [ <a href="http://www.water.go.jp/kansai/biwako/">http://www.water.go.jp/kansai/biwako/</a> ]			”
6-6	社団法人びわこビジターズビューローHP [ <a href="http://www.biwako-visitors.jp/">http://www.biwako-visitors.jp/</a> ]			”
6-7	水のめぐみ館アクア琵琶 HP [ <a href="http://www.aquabiwa.jp/">http://www.aquabiwa.jp/</a> ]			”
6-8	滋賀県立琵琶湖博物館 HP [ <a href="http://www.lbm.go.jp/">http://www.lbm.go.jp/</a> ]			”
6-9	草津市立水生植物公園みずの森 HP [ <a href="http://www.mizunomori.jp/">http://www.mizunomori.jp/</a> ]			”
6-10	国勢調査報告	総務省統計局		
6-11	滋賀県統計書 〔2006(平成18)年～2003(平成15)年〕	滋賀県	2008(平成20)年～ 2005(平成17)年	
6-12	滋賀県推計人口年報	滋賀県統計課		
6-13	図で見る滋賀県の姿 2007〔P29 交通〕	滋賀県	2007(平成19)年	
6-14	平成17年度 全国観光動向	社団法人日本観光協会	2007(平成19)年10月	
6-15	ビワコマイアミランド マイアミ浜オートキ ャンプ場 創立10周年記念誌	野洲市湖岸開発(株)	2004(平成16)年	
6-16	企画展でふりかえる 琵琶湖博物館の10年	滋賀県立琵琶湖博物館	2006(平成18)年10月	
6-17	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部10年の歩み	滋賀県立琵琶湖博物館	2006(平成18)年10月	
6-18	平成18年度 琵琶湖フォローアップ資料整 理業務報告書 〔頁2-1-4,頁2-1-16,頁2-1-18,頁2-1-19,頁2-3-1〕	独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2007(平成19)年3月	
6-19	関西道路地図	株式会社昭文社	2003(平成15)年5月	